

令和3年度

登別の教育

登別市教育委員会

令和3年10月作成

目 次

登別市の概要

位置及び面積、市名の由来、登別市の沿革	1
登別市の市章、登別市の花・花木・木、登別市民憲章	2
国際観光レクリエーション都市宣言	2

教育行政

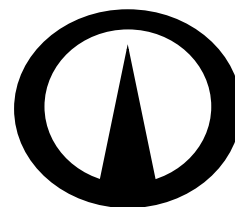
教育委員会	3
歴代教育委員	4
歴代教育委員長・歴代教育長	5
登別市の教育のあゆみ	6
小・中学校児童生徒数の推移	1 5
小・中学校の学校数・学級数等の推移	1 6
登別市立小・中学校	1 8
登別市内の高等学校、専門学校	3 1
社会教育施設・図書館	3 4
学校給食センター	4 1
各種審議会委員等	4 3
のぼりべつの文化財	4 5
登別市小・中学校・高等学校統廃合校の沿革と校歌	5 6
室蘭常盤学校幌別分校（現幌別小学校）設立請願書	5 9

登別市の概要

位置及び面積	<p>登別市は、北海道の南西部に位置し、形状はほぼひし形をなしている。南は太平洋に面し、その海岸線はほぼ一直線である。東は登別漁港、クッタラ湖付近で白老町と接し、北はオロフレ峠、来馬岳付近で壮瞥町と接している。さらに、西は鷲別岬から鷲別岳にかけて室蘭市と伊達市に接している。</p> <p>東経 141度11分22秒 北緯 42度20分59秒</p> <p>姉妹都市 宮城県白石市（昭和58年10月）、 神奈川県海老名市（平成27年5月）</p> <p>交流都市トライアングル宣言（平成23年4月） 宮城県白石市・神奈川県海老名市</p> <p>姉妹温泉 群馬県草津温泉（昭和47年6月）</p> <p>人口（令和3年4月末日現在） 46,480人（男 22,299人、女 24,181人）</p> <p>世帯数 24,547世帯</p>
市名の由来	<p>登別市の名前は、アイヌ語の「ヌプルペツ」（色の濃い川）に由来する。 （温泉から流れ出る川なので、水が暗く濁っていることから名付けられた。）</p>
登別市の沿革	<p>明治2年に幌別郡の支配を命じられた仙台藩旧白石城主一片倉小十郎邦憲が中心となって、明治3年7月以降に76戸270人が移住し、先住のアイヌ民族と協力した生活が始まった。</p> <p>この頃の登別は、幸いなことに、隣接する室蘭では鉄鋼産業が発展し、明治25年に夕張から室蘭に石炭を運ぶ北海道炭砒鉄道が敷かれ、幌別、登別の停車場が開業し、街としての発展の基礎が出来た。そして、登別温泉と登別駅との間を結ぶ交通の便として客馬車、次いで軽便鉄道、電車が走り、昭和に入るとバスが走った。登別温泉は徐々に観光拠点として整備が進んでいったが、その他は急速な発展を見ることがなかった。</p> <p>だが、第2次世界大戦に入るや室蘭の鉄鋼産業は急速に活発化し、昭和15年以降、現在の富士町に日鉄社宅1,450戸が建設され、温泉の街に工業都市・室蘭市のベッドタウンとしての要素も加わって、更に飛躍する契機となった。それは同時に本市が室蘭の工業と構造的な結びつきによって、後年室蘭に隣接する鷲別地区に住宅が増大し、両地区が将来的には完全に連担する要因となった。</p> <p>戦後、札内は、畑作から酪農へと転換していった。こうして、昭和26年幌別町として町制をしく街に発展し、更に昭和36年に登別町として町名を改正し、昭和45年には待望の市制が施行された。</p> <p>市制施行当時は、室蘭工業圏を支える住宅地として人口の急速な増加が見られ、教育施設をはじめ、生活環境や公共施設の整備が急務とされた時代であったが、現在登別市は、国際観光レクリエーション宣言の街として、美しい自然環境を守り、真に豊かで快適な「まちづくり」を目指し、道内有数の観光地として発展している。</p> <p>更にまちづくりのキャッチフレーズを「人が輝き、まちがときめく、ふれあい交流都市のぼりべつ」と掲げ、市民の思い描く夢を将来像として、登別ゆめまち構想に反映させた新しい総合計画を基に、まちづくりの理念の実現に向けた取り組みを進めている。</p>

登別市の市章

力強く伸びる市の将来を表現したもので、登別の頭文字「の」を単純かつ明瞭化し、円内左右の空間は市勢伸長の二大基盤である鉱業、観光の意義を含め、中心の長三角形は限りなく躍進する登別市の発展を希ったものである。



登別市の
花・花木・木

[登別の花]
キク

[登別の花木]
ツツジ

[登別の木]
プラタナス



登別市民憲章

わたしたちは 古い歴史と美しい自然に恵まれた登別の市民です
ここに わたしたちの心がまえを定めてよりよいまちをつくることに
努めます

- 1 心身をきたえよく働いて 活気あふれる豊かなまちをつくり
ましょう
- 2 親切をつくし きまりを守って 明るくすみよいまちをつくり
ましょう
- 3 自然を愛し 力をあわせて緑と空気と太陽のいっぱいある
きれいなまちをつくりましょう
- 4 未来をつくる青少年の 健全な夢の育つまちをつくりましょう
- 5 教養をつみ 視野を広げて 平和で文化のかおり高いまちを
つくりましょう

(一昭和43年9月20日制定一)

国際観光レク
リレーション
都市宣言

美しい自然と無限の温泉に恵まれた登別市は、北海道観光の宝です。
生活を楽しみ、心身を健やかに、明日への活力を求め、世界の人々
が相い集う街、理想郷登別市を目指して、ここに「国際観光レク
レーション都市」を宣言します。 (一昭和61年3月24日決議一)

1 教育行政

1 教育委員会



教育長

武田 博

平成14年2月20日就任
平成28年10月23日から新教育長



委員（教育長職務代理者）

赤井 秀輝

平成24年10月7日就任



委員

堅田 裕

平成26年10月1日就任



委員

上村 正人

令和元年10月1日就任



委員

木村 雅美

令和元年12月19日就任

2 歴代教育委員

氏 名	自	至	備 考
赤坂 準一	S27.10.1	S37.12.31	公選委員 (31.10.1 任命)
藤平 喜三郎	S27.10.1	S39.11.5	〃
花輪 高弘	S27.10.1	S31.9.30	公選委員
武安 良助	S27.10.1	S31.9.30	〃
平畠 文次郎	S27.10.1	S30.9.30	議会選出委員
麻生 外次郎	S30.10.1	S31.9.30	〃
上田 邦男	S31.10.1	S41.6.8	任命制による委員 (以下同じ)
勝間 久太郎	S31.10.1	S38.9.30	
中川原 豊	S31.10.1	S39.9.30	
浜本 武志	S38.4.1	S38.12.12	
若狭 徳兵衛	S38.11.12	S42.11.11	
柳沼 高杉	S39.4.5	S44.9.30	
筒井 敬祐	S39.10.1	S42.4.18	
宮崎 徳治	S38.11.12	S41.9.30	
中川原 豊	S41.6.9	S46.9.30	
国分 恒次	S41.10.1	S45.9.30	
高橋 利市	S42.5.10	S43.9.30	
内藤 秀吉	S42.11.15	S58.9.30	
須賀 武夫	S43.10.1	S63.9.30	
山下 文雄	S44.10.1	S53.6.23	
桜井 弘	S45.10.1	S53.9.30	
川島 芳信	S46.10.1	S55.9.30	
吉原 暲	S53.10.1	S61.9.30	
大笹 繁	S53.10.1	S56.9.30	
阿部 隆雄	S55.10.1	S59.9.30	
安田 麻夫	S56.10.1	S63.9.20	
中山 隆二郎	S58.10.1	H3.9.30	
大野 吉三郎	S59.10.1	H4.10.6	
堅田 勇	S61.10.1	H10.9.30	
岩倉 志子	S63.10.7	H5.9.30	
後藤 八良	S63.10.12	H12.10.12	
峰田 弘道	H3.10.1	H17.6.21	
細川 正昭	H4.10.7	H11.8.31	
中山 節子	H5.10.1	H13.3.31	
志賀 辰哉	H10.10.1	H14.10.24	
斉藤 亨	H11.9.25	H16.8.5	
青木 宏司	H12.10.23	H14.2.8	
垣内 登紀子	H13.4.1	R元.11.3	
武田 博	H14.2.20	H28.10.22	
千葉 泰二	H14.12.18	H26.9.30	
松村 昌孝	H16.10.7	H24.10.6	
森口 達	H17.9.29	R元.9.30	
赤井 秀輝	H24.10.7		
堅田 裕	H26.10.1		
上村 正人	R元.10.1		
木村 雅美	R元.12.19		

3 歴代教育委員長

氏名	自	至	備考
赤坂 準一	S27.10.1	S28.9.30	
花輪 高弘	S28.10.1	S29.10.1	
武安 良助	S29.10.1	S30.10.1	
藤平 喜三郎	S30.10.1	S39.10.1	
上田 邦男	S39.10.1	S41.6.8	
中川原 豊	S41.6.9	S46.9.30	
内藤 秀吉	S46.10.1	S58.9.30	
須賀 武夫	S58.10.7	S63.9.30	
中山 隆二郎	S63.10.7	H3.9.30	
大野 吉三郎	H3.10.2	H4.10.6	
堅田 勇	H4.10.7	H10.9.30	
峰田 弘道	H10.10.6	H17.6.21	
松村 昌孝	H17.9.29	H24.10.6	
垣内 登紀子	H24.10.18	H28.10.22	

4 歴代教育長

氏名	自	至	備考
高田 忠雄	S27.11.10	S28.3.31	兼任
山本 有友	S28.4.1	S29.6.16	〃
小林 与助	S29.7.17	S30.2.28	〃
高田 忠雄	S30.3.1	S30.4.22	〃
後藤 四郎	S30.4.23	S30.9.7	事務取扱
高田 忠雄	S30.9.8	S32.3.31	職務代行
上田 邦男	S32.4.1	S34.4.16	専任(非常勤)
後藤 四郎	S34.4.17	S34.6.3	職務代行
上田 邦男	S34.6.4	S38.3.31	専任(非常勤)
浜本 武志	S38.4.1	S38.12.12	専任
上田 邦男	S38.12.13	S39.4.4	専任(非常勤)
柳沼 高杉	S39.4.22	S44.9.30	専任
山下 文雄	S44.10.1	S53.6.23	〃
大笹 繁	S53.9.25	S56.9.30	〃
安田 麻夫	S56.10.1	S63.9.20	〃
後藤 八良	S63.10.2	H12.10.1	〃
青木 宏司	H12.10.23	H14.2.8	〃
武田 博	H14.2.20		〃平成28年10月23日から新教育長

5 登別市の教育のあゆみ

- 明治 2年
8月 幌別郡が置かれる。
- 明治 4年
9月 幌別に共立教育所（郷学校・児童数28名）を開設し、読書科、算術科、習字科の三科を設けた。
- 明治 5年
8月 学制交付
- 明治14年
6月 室蘭常盤学校幌別分校（現幌別小学校）を創立する。《幌別分校開設に当たり開拓使あてに書かれた貴重な資料である請願書をP55に掲載》
- 明治15年
8月 室蘭常盤学校鷺別分校（現鷺別小学校）を創立する。
10月 室蘭常盤学校幌別分校が幌別学校として独立し、室蘭常盤学校鷺別分校が幌別学校鷺別分校に名称変更する。
- 明治17年
9月 幌別学校鷺別分校が独立して鷺別小学校に改称する。
- 明治19年
4月 鷺別尋常小学校が戸数減少で廃校となり、幌別小学校附属鷺別分校となる。
- 明治21年
4月 ジョン・バチラー氏が私立相愛学校（後の愛隣学校）を創設する。
- 明治23年
3月 鷺別小学校と改称し、再び創立、独立する。（鷺別尋常高等小学校学校台帳より）
- 明治25年
6月 幌別尋常小学校鷺別小学校が鷺別岬の神社下に新築移転する。
8月 幌別尋常小学校登別分校を開設する。
- 明治28年
4月 幌別尋常小学校登別分校が登別尋常小学校として独立する。
8月 満岡寺（室蘭市）が登別温泉に説教所を設立し、寺小屋教育を開設する。
- 明治29年
5月 塵別尋常小学校富岸分校を開校する。
- 明治33年
4月 幌別、鷺別、登別の各校に補習科を設置する。
5月 幌別尋常小学校附属札内簡易教育所を開設する。
5月 塵別尋常小学校富岸分校が富岸簡易教育所として独立する。
- 明治34年
4月 幌別尋常小学校鷺別分校が鷺別尋常小学校として独立する。
- 明治36年
4月 登別尋常小学校附属分教場を開設する。（温泉小学校沿革誌より）
- 明治39年
4月 登別尋常小学校附属分教場が湯ノ滝簡易教育所として独立する。
（温泉小学校沿革誌より）
5月 幌別尋常小学校附属幌別鉦山教育所（鉦山小学校前身）を開設する。
- 明治41年
4月 小学校令により尋常科6年、高等科2年と改正される。
4月 湯ノ滝簡易教育所が湯乃滝教育所に改称する。
- 明治42年
4月 富岸簡易教育所が富岸教育所に改称する。
11月 幌別尋常小学校附属旭鉦特別教授場を開設する。

- 明治44年
2月 登別尋常小学校蘭法華特別教授所を開設する。
- 大正2年
2月 登別尋常小学校蘭法華特別教授所を廃止する。
9月 登別尋常小学校が校舎を増築する。
10月 幌別尋常小学校附属札内簡易教育所を廃止する。
- 大正4年
4月 湯乃滝教育所を湯乃滝尋常小学校と改称する。
6月 幌別尋常小学校附属旭鉦特別教授場が幌別鉦山尋常小学校の所属になる。
- 大正5年
4月 幌別尋常小学校附属札内教育所が開校する。
7月 鷺別尋常小学校が栄町1丁目に新築移転し、富岸教育所を併合する。
- 大正6年
4月 幌別尋常小学校に高等科を併置する。
- 大正7年
4月 鉦山小学校に補習科を併置する。
4月 幌別鉦山尋常小学校附属旭鉦特別教授場が旭尋常小学校となる。
4月 湯乃滝尋常小学校を登別温泉尋常小学校と改称し、現在地に移転する。
- 大正9年
4月 登別尋常小学校に高等科を併置する。
7月 旭尋常小学校が廃校となる。
- 大正11年
4月 鷺別尋常小学校附属富岸特別教授場を設置する。
6月 鷺別尋常小学校が鷺別村138番地に新築移転する。
- 大正12年
4月 登別温泉尋常小学校附属カルルス特別教授場（カルルス温泉小学校前身）を開設する。
- 昭和5年
4月 登別温泉尋常小学校に高等科を併置する。
- 昭和8年
4月 鷺別尋常小学校附属富岸特別教授場が富岸尋常小学校と改称して独立する。
12月 登別温泉尋常小学校附属カルルス特別教授場がカルルス温泉尋常小学校に改称して独立する。
- 昭和9年
4月 幌別鉦山尋常小学校が補習科を廃止し、高等科を併置する。
7月 富岸尋常小学校が校舎を改築する。
- 昭和10年
4月 鷺別尋常小学校に高等科を併置する。
5月 幌別尋常高等小学校が新築落成する。
- 昭和11年
1月 登別尋常高等小学校の新校舎が完成する。
- 昭和15年
4月 幌別尋常小学校附属札内教育所が札内尋常小学校として独立する。
10月 鷺別尋常高等小学校が鷺別町171番地（現在地）に移転新築する。
- 昭和16年
4月 全小学校の名称が国民学校として改称され、教育の戦時体制化が図られる。
- 昭和20年
1月 軍令により登別国民学校の一部が兵舎となり、終戦まで続く。
- 昭和22年
1月 学校給食が希望校の求めに応じて開始される。
4月 学校教育法が制定され、6・3・3・4制となり国民学校を小学校に改称する。

このときの登別の小学校は幌別、鷺別、富岸、幌別鉦山、札内、登別、登別温泉、カルルス温泉の8校であった。

- 5月 新学制により中学校を幌別、鷺別、登別に開設する。
- 7月 登別温泉中学校が開設され、この年に中学校4校を設立する。
- 昭和23年
 - 10月 旧幌別中学校を仮校舎として北海道立室蘭高等学校（現北海道室蘭栄高校）幌別分校定時制として北海道登別高等学校が開校。
- 昭和24年
 - 5月 登別中学校が登別本町1丁目1番地1（現在地）に新築移転する。
 - 11月 幌別中学校札内分校が開校し、札内小学校に併設される。
- 昭和25年
 - 1月 社会教育委員を設置する。
 - 7月 幌別小学校完全給食となる。
- 昭和26年
 - 4月 町制施行（幌別町）する。
 - 8月 幌別小学校来馬分校（現幌別西小学校）が設立認可される。
- 昭和27年
 - 6月 幌別小学校来馬分校が幌別西小学校として独立改称する。
 - 7月 登別小学校が校舎を増築する。
 - 10月 教育委員会発足 教育委員の公選 が行われる。
- 昭和28年
 - 4月 幌別鉦山中学校在幌別鉦山小学校に併設される。
 - 11月 幌別西小学校が完全給食となる。
- 昭和29年
 - 4月 札内中学校が独立し、札内小学校に併設される。
- 昭和30年
 - 1月 幌別小学校が全焼し、幌別西小学校及び幌別中学校を間借りして授業を行う。
 - 10月 全校舎（赤レンガ）を新築落成する。
- 昭和31年
 - 6月 「地教行法」の公布により、教育委員の公選廃止。
 - 10月 新教育委員（赤坂惇一氏、藤平喜三郎氏、上田邦男氏、勝間久太郎氏、中川原豊氏）が任命される。
- 昭和32年
 - 10月 登別温泉小学校校舎（レンガ造）を新築落成する。
- 昭和33年
 - 2月 登別小学校が校舎を増築する。
 - 10月 鷺別小学校校舎（レンガ造）を新築落成する。
 - 10月 カルルス温泉小学校を新築落成する。
- 昭和36年
 - 2月 富岸小学校が校舎を新築落成する。
 - 4月 登別町（幌別町から）として町名改正する。
- 昭和38年
 - 4月 町立登別高校を開設する。
 - 4月 私立室蘭第二大谷高等学校（現登別大谷高校）が開校する。
 - 7月 登別中学校の新校舎が完成する。
 - 9月 中央公民館を開館する。
 - 12月 鷺別公民館を開館する。
- 昭和40年
 - 4月 登別高校が道立に移管する。
 - 4月 登別温泉小学校特殊学級として、厚生年金登別整形外科病院内に「ひかり学園（肢体不自由）」開設する。

- 4月 札内小・中学校の校舎を落成する。
- 10月 鷲別小学校が校舎を増築する。
- 10月 私立室蘭第二大谷高等学校が登別大谷高等学校に改称される。
- 昭和41年
 - 4月 幌別西小学校に特殊学級（知的障害）を設置する。
 - 4月 登別温泉中学校の特殊学級として、厚生年金登別整形外科病院内に「ひかり学園（肢体不自由）」を開設する。
 - 7月 登別の小・中学校初の学校プールが幌別西小学校に設置する。
 - 12月 登別公民館が完成する。
- 昭和42年
 - 1月 給食センターが開設され、町内小中学校が完全給食となる。
 - 4月 幌別中学校：特殊学級（知的障害）を設置する。
 - 4月 財団法人登別町育英会が設立される。
- 昭和43年
 - 2月 鷲別小学校：胆振管内教育実践表彰受賞
 - 4月 鷲別小学校・鷲別中学校：特殊学級（知的障害）を設置する。
 - 8月 町営陸上競技場を開設する。〔3種公認、⇒S48年11月2種公認〕
- 昭和44年
 - 4月 登別温泉公民館を開館する。
 - 5月 登別市青少年会館を開館する。（開道100年記念事業）
- 昭和45年
 - 2月 登別中学校：北海道教育実践表彰受賞
 - 4月 幌別東小学校を開校する。特殊学級（知的障害）を併設する。
 - 8月 市制施行
 - 12月 札内小中学校の体育館が完成する。
- 昭和46年
 - 2月 幌別鉦山小学校：胆振管内教育実践表彰受賞
 - 4月 若草小学校を開校する。
- 昭和47年
 - 5月 登別市立図書館が竣工する。
- 昭和49年
 - 2月 幌別東小学校：胆振管内教育実践表彰受賞
 - 3月 幌別鉦山小中学校：閉校し、幌別西小学校・西陵中学校に統合する。
 - 4月 西陵中学校を開校する。
 - 4月 市内全域の町名地番変更（登別市〇〇町〇丁目〇番地〇）
 - 10月 総合体育館を開館する。
 - 11月 市民プール（千歳町）が完成する。
- 昭和50年
 - 2月 市民プール（千歳町）を開館する。
- 昭和51年
 - 4月 市立富士幼稚園を開園する。
- 昭和52年
 - 4月 青葉小学校を開校する。
 - 4月 市立若草幼稚園を開園する。
- 昭和53年
 - 2月 幌別東小学校：北海道教育実践表彰・全国表彰「博報賞」受賞
 - 4月 市立登別温泉幼稚園を開園する。
 - 4月 富岸小学校：移転新築する。
 - 4月 市民研修センターを開設する。（旧鉦山小・中学校施設を利用）
 - 9月 登別中学校：文部省「生徒指導研究推進校」感謝状受賞

昭和54年

- 3月 若草小学校：胆振管内教育実践表彰受賞
- 4月 富岸青少年会館を開館する。
- 4月 北海道登別南高等学校が開校する。
- 11月 登別小学校：文部省指定北海道学校歯科保健活動の研究会を開催する。

昭和55年

- 4月 若草小学校：特殊学級（知的障害）を設置する。
- 4月 学校法人登別大谷学園が発足する。
- 9月 市営水泳プール（野外）を開設する。

昭和56年

- 1月 美園児童センターを開館する。
- 7月 幌別西小学校のPTA活動が北海道PTA連合会と日本PTA全国協議会より会長表彰受賞
- 9月 郷土資料館を開館する。

昭和57年

- 2月 札内小中学校：胆振管内教育実践表彰受賞
- 3月 カルルス温泉小学校が閉校し、登別温泉小学校に統合する。
- 4月 日本工学院北海道専門学校開校する。

昭和58年

- 4月 緑陽中学校を開校する。
- 6月 市民会館を開館する。
- 9月 登別温泉小学校ひかり学園分校が豪雨災害で登別厚生年金病院が休業したため休校となる。
- 9月 登別大谷高等学校の体育館が全焼する。

昭和59年

- 2月 登別温泉中学校：胆振管内教育実践表彰受賞
- 4月 幌別小学校に言語治療教室を開設する。
- 4月 西陵中学校に特殊学級（知的障害）を設置する。
- 4月 登別中学校を改築する。（これにより、市内小・中学校が全て耐火構造となる）
- 6月 登別大谷高等学校の体育館が完成する。
- 10月 登別小、登別中、幌別中の三校が文部省指定「道徳教育共同推進校」として研究会を開催する。

昭和60年

- 6月 鷺別公民館を開館する。
- 10月 鷺別小学校に野外プールを開設する。

昭和62年

- 2月 登別温泉小学校：胆振管内教育実践表彰受賞

昭和63年

- 5月 幌別西小学校がベルマーク百万点を達成し、全国教育設備助成会より表彰される。

平成元年

- 3月 青葉小学校が「長縄跳び90人」のギネスに挑戦し、185回を跳んで世界新記録を樹立する。
- 4月 教育委員会に生涯学習推進室を新設する。

平成2年

- 8月 市立図書館を改修する。
- 9月 登別小学校を改修する。
- 9月 幌別東小学校・幌別中学校が文部省指定「道徳教育共同推進校」として研究会を開催する。
- 10月 幌別中学校とデンマーク・ノーアエアスクールとの姉妹校友好を契る。

平成3年

- 2月 幌別中学校：胆振管内教育実践表彰受賞

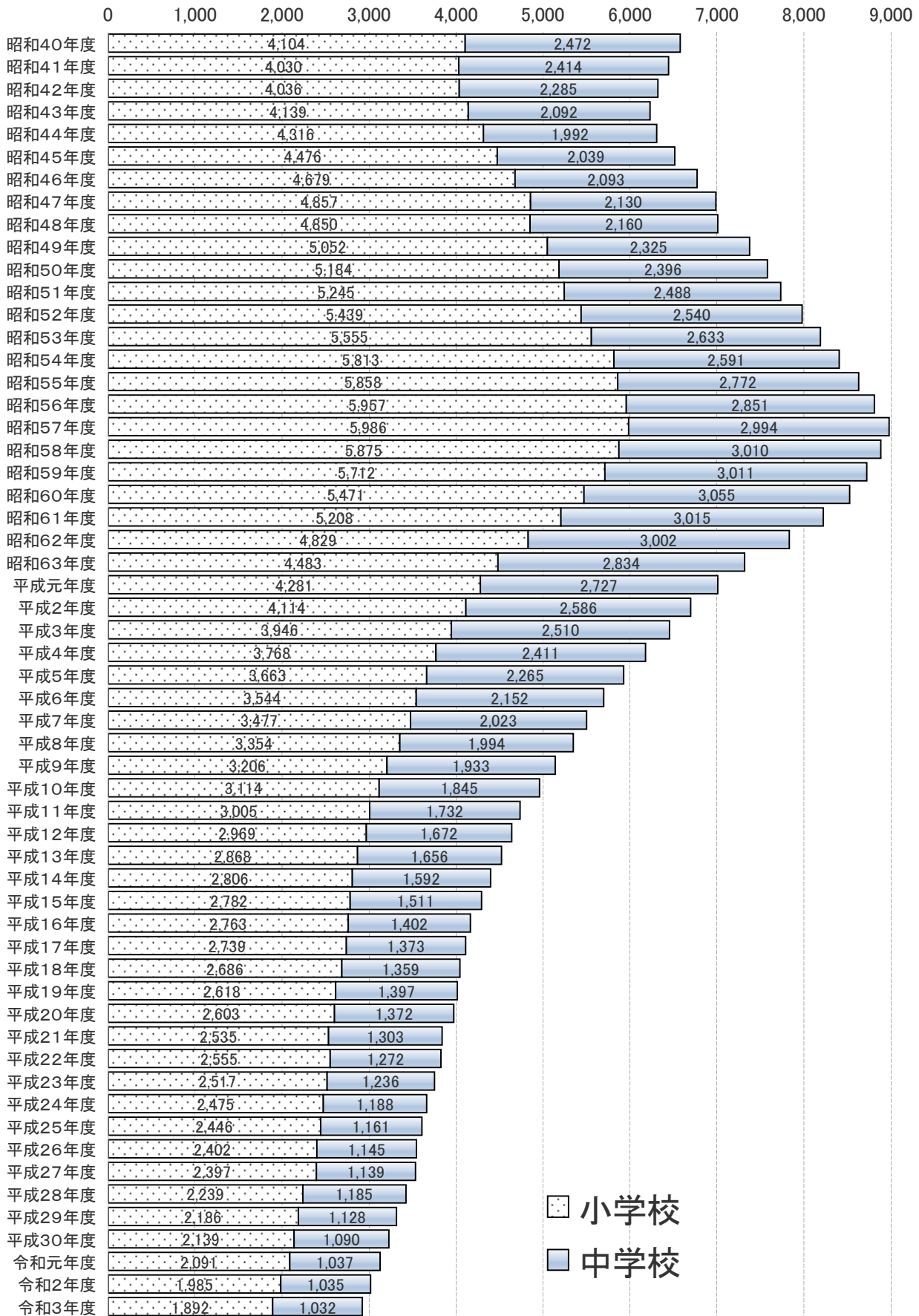
- 6月 幌別西小学校：「オアシスルーム」を開設する。
- 9月 若草小学校：「若草ドーム」を開設する。
- 平成4年
11月 登別中学校：校舎大規模改造工事3年度分が完了する。
- 4月 登別温泉中学校：北海道知事より「愛鳥モデル校」として指定を受ける。
- 5月 富岸小学校：全日本花いっぱい連盟より表彰受賞
- 10月 幌別中学校：「社会を明るくする運動」で法務大臣表彰受賞
- 11月 登別中学校：校舎大規模改造工事4年度分が完了する。
- 11月 登別中学校：「ミツワルーム」を開設する。（生徒用コンピュータ導入）
- 11月 各中学校：コンピュータ2台ずつ設置する。
- 12月 富岸小学校：胆振管内教育実践表彰受賞
- 12月 幌別小学校：校舎改築工事着工する。
- 平成5年
6月 鷺別中学校と幌別中学校に生徒用コンピュータを導入する。
- 11月 富岸小学校のPTA活動が北海道PTA連合会と日本PTA全国協議会より会長表彰受賞
- 11月 登別中学校体育館の大規模工事が完了する。
- 12月 幌別小学校の改築工事が完成する。
- 平成6年
3月 幌別小学校：改築工事が完了する。
- 3月 青葉小学校：胆振管内教育実践表彰受賞
- 9月 幌別小学校：新校舎落成記念式典
- 10月 西陵中学校：学校花壇全国表彰受賞
- 平成7年
2月 幌別中学校：北海道教育実践表彰受賞
- 10月 緑陽中学校：コンピュータ21台を設置する。
- 平成8年
3月 郷土資料館：文化伝承館を開館する。
- 10月 幌別西小学校：文部省「調査統計功労者表彰」受賞
- 平成9年
4月 岡志別の森運動公園を開園する。
- 8月 若草小学校：三階に和室を設置する。
- 平成10年
3月 若草小学校：若草ドームを閉鎖する。
- 3月 登別温泉小中学校ひかり学園分校が廃止される。
- 4月 札内小中学校：閉校し、幌別小学校・幌別中学校に統合する。
- 平成11年
2月 登別小学校：コンピュータ室を新設する。
- 3月 幌別小学校：北海道教育実践表彰受賞
- 8月 青葉小学校：コンピュータ（14台）室を新設する。
- 9月 鷺別小学校：コンピュータ室を新設する。
- 11月 緑陽中学校：「壁新聞コンクール」で学校賞受賞
- 11月 若草小学校：コンピュータ室を新設する。
- 平成12年
3月 西陵中学校：胆振管内教育実践表彰受賞
- 11月 青葉小学校：IT光ケーブル・校内LAN完成
- 10月 西陵中学校：校舎・体育館大規模改造工事（校舎耐震改修含む）が完了する。
- 12月 幌別東小学校：コンピュータルーム・準備室を設置する。
- 平成13年
2月 西陵中学校：北海道教育実践表彰受賞
- 10月 幌中、幌小、東小のおやじの会が「胆振おやじの会サミット」を開催する。

- 1 1 月 登別小学校：光ファイバーケーブル敷設、校内LAN配線工事完成
平成14年
- 1 月 若草小学校：光ファイバーケーブル敷設、校内LAN配線工事完成
3 月 登別小学校：胆振管内教育実践表彰受賞
4 月 ネイチャーセンター「ふおれすと鉾山」を開館する。
6 月 登別中学校：登別漁港清掃活動で北海道漁港共同組合より全道表彰受賞
1 0 月 登別小学校：全日本学校歯科保健優良校として文部科学大臣表彰受賞
平成15年
- 1 0 月 鷺別中学校：北海道「中学校の税に関する作文コンクール」で学校賞受賞
1 1 月 幌別小学校：文科省指定「国語力向上モデル事業」研究会を開催する。
1 1 月 幌別中学校「おやじの会」：日本PTA全国協議会・北海道PTA連合会より表彰される。
1 2 月 市民プール（千歳町）閉館する。
平成16年
- 3 月 登別温泉中学校：閉校し、登別中学校に統合する。
6 月 市民プール「らくあ」新設（野外・学校プールが全面閉鎖される）
1 1 月 若草小学校：校舎・体育館大規模改造工事（耐震改修含む）が完了する。
7 月 市民プール（千歳町）解体する。
1 1 月 富岸小学校：文科省「学力向上フロンティアスクール」公開研究会開催
平成17年
- 3 月 北海道登別南高校閉校する。
4 月 北海道青嶺高等学校が開校する。
4 月 鷺別小学校：文科省「子どもと親の相談員等活用調査研究事業」推進
8 月 鷺別小学校：学校前花壇が日本道路協会賞受賞
1 1 月 幌別小学校：文科省指定「伝え合う力を養う調査研究事業」公開研究会開催「国語・日本語」部門で博報賞受賞
平成18年
- 2 月 富岸小学校：北海道教育実践表彰受賞 幌別東小学校：胆振教育実践表彰受賞
4 月 西陵中学校：文科省「キャリア教育実践校」指定
1 0 月 幌別小学校：文科省「伝え合う力を養う調査研究事業」公開研究会開催
平成19年
- 3 月 登別温泉小学校が閉校し、登別小学校に統合する。
3 月 北海道登別高等学校閉校
4 月 登別明日中等教育学校が開校する。
4 月 幌別西小学校：文科省「子どもと親の相談員等活用調査研究事業」推進
6 月 のぼりべつ文化交流館を開館する（旧温泉中学校校舎を利用）
1 0 月 幌別中学校：「社会を明るくする運動」で北海道実施委員会の委員長表彰受賞
1 1 月 幌別小学校：文科省「児童生徒の心に響く道徳教育推進事業」公開研究会開催
1 1 月 登別小学校：文科省「コミュニティ・スクール推進事業」公開研究会開催
1 1 月 鷺別中学校：文科省「人間としてのあり方・生き方を考える教育」実践研究事業の公開研究会開催
平成20年
- 2 月 幌別東小学校：北海道教育実践表彰受賞
2 月 登別中学校：サイパン中学生交流事業
6 月 洞爺湖サミットアメリカ合衆国歓迎式典に登別OMB（おにっこマーチングバンド）参加
6 月 鷺別小学校：放課後こども教室「ひなわしメート」を開設する。
平成21年
- 9 月 新型インフルエンザが流行（学級閉鎖・臨時休校相次ぐ）
平成22年
- 2 月 全小中学校に大型デジタルテレビを配置する。
4 月 市教委が文部科学省「全国学力・学習状況調査の結果を活用した調査研究」指定を受ける。
1 0 月 教育委員会点検・評価報告書（平成21年度版）作成し公表を行う。

- 1 2月 鷺別中学校：体育館の耐震改修が完了する。
- 平成23年
- 3月 東日本大震災が発生 大津波警報により多くの学校が避難所となる。姉妹都市白石市に、応援メッセージや義援金などの支援活動を行う。
- 1 0月 幌別東小学校：放課後子ども教室「はまなすメート」を開設する。
- 1 2月 青葉小学校：体育館の耐震改修が完了する。
- 1 2月 登別中学校：体育館の耐震改修が完了する。
- 平成24年
- 2月 全小学校でスキー授業実施（青葉小はスケート）
- 1 1月 暴風雪による大停電のため市内小中学校臨時休校(最長4日間)
- 1 2月 幌別小学校：体育館の耐震改修が完了する。
- 1 2月 西陵中学校：体育館の耐震改修が完了する。
- 平成25年
- 4月 幌別小学校：道教委「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校
- 1 2月 登別小学校：体育館の耐震改修が完了する。
- 平成26年
- 2月 富岸小学校：体育館の耐震改修が完了する。
- 2月 全小中学校でフッ化物洗口実施（中学校4校開始）
- 4月 幌別中学校：道教委「土曜授業推進事業」実践再委託校
- 4月 他12小・中学校：道教委「土曜授業推進事業」実践再委託協力校
- 6月 市内全小・中学校でコミュニティ・スクールを開設する。
- 平成27年
- 3月 鷺別小学校：屋内運動場改築工事が完了する（全ての屋内運動場耐震化完了）。
- 3月 鷺別中学校：校舎の耐震改修が完了する。
- 3月 幌別小学校：平成26年度胆振管内教育実践表彰受賞
- 5月 幌別中学校：神奈川県海老名市立大谷中学校修学旅行による生徒間交流
- 6月 登別市総合教育会議設置
- 7月 鷺別小学校：校舎改築工事着工
- 9月 登別小学校：平成27年度日本教育公務員弘済会教育研究実践奨励校指定校
- 1 0月 登別小学校：北海道学校歯科保健優良校表彰優秀賞受賞
- 1 2月 登別市学校支援地域本部事業：文部科学大臣表彰受賞
- 平成28年
- 1月 総合体育館：耐震改修・大規模改修が完了する。
- 2月 登別市いじめ防止基本方針策定
- 7月 登別市教育大綱策定
- 1 2月 鷺別小学校：校舎改築工事が完了する。
- 平成29年
- 2月 青葉小学校：校舎の耐震改修が完了する。
- 5月 市長部局に登別市いじめ調査委員会を、教育委員会に登別市重大事案対策委員会を設置する。
- 平成30年
- 1月 登別中学校：校舎の渡り廊下の改築が完了する。
- 2月 登別中学校：校舎の耐震改修が完了する。
- 2月 登別小中一貫教育基本方針策定
- 3月 鷺別小学校：外構工事が完了する。
- 9月 鷺別小学校：新校舎落成記念式典
- 9月 登別市立学校における働き方改革基本方針策定
- 平成31年（令和元年）
- 2月 富岸小学校：校舎の耐震改修が完了する。
- 3月 登別市教育振興基本計画策定

- 7月 登別市立学校に係る部活動の方針策定
- 令和 2年
 - 12月 幌別西小学校：校舎の耐震改修が完了する。
 - 2月～5月 新型コロナウイルス感染症対策のため小中学校臨時休業 2/27～3/24、4/20～5/31
 - 3月 幌別西小学校：渡り廊下改築工事が完了する。
 - 3月 登別小学校：校舎の耐震改修が完了する。
 - 3月 登別市教育施設長寿命化計画策定
 - 9月 登別公民館 施設老朽化のため廃止する。
- 令和 3年
 - 3月 幌別東小学校：校舎の耐震改修が完了する。（市内小学校の耐震化が完了する。）
 - 3月 幌別中学校：校舎の耐震改修が完了する。（市内中学校の耐震化が完了する。）
 - 3月 G I G Aスクール構想に伴う一人一台端末（Chromebook）の整備完了
 - 3月 市内小中学校13校へ無線通信ネットワークの整備完了
 - 7月 登別市立中学校における重大事態の再発防止策策定
 - 8月 登別市立中学校の適正規模・適正配置の指針～将来における小中学校のグランドデザイン～策定

小・中学校児童生徒数の推移



小学校
 中学校

小中学校の学校数・学級数等の推移(昭和40年～平成5年)

各年5月1日現在

区分 年次	学校数			学級数			教職員数			小学校			中学校			合計		
	小	中	計	小	中	計	小	中	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
昭和40年度	9	6	15	106	62	168	136	104	240	2,092	2,012	4,104	1,229	1,243	2,472	3,321	3,255	6,576
昭和41年度	9	6	15	104	60	164	140	103	243	2,078	1,952	4,030	1,215	1,199	2,414	3,293	3,151	6,444
昭和42年度	9	6	15	107	59	166	145	106	251	2,064	1,972	4,036	1,143	1,142	2,285	3,207	3,114	6,321
昭和43年度	9	6	15	115	57	172	153	107	260	2,112	2,027	4,139	1,055	1,037	2,092	3,167	3,064	6,231
昭和44年度	9	6	15	126	54	180	169	108	277	2,210	2,106	4,316	1,007	985	1,992	3,217	3,091	6,308
昭和45年度	10	6	16	131	57	188	187	113	300	2,315	2,161	4,476	1,005	1,034	2,039	3,320	3,195	6,515
昭和46年度	11	6	17	142	56	198	204	114	318	2,376	2,303	4,679	1,049	1,044	2,093	3,425	3,347	6,772
昭和47年度	11	6	17	144	61	205	210	121	331	2,503	2,354	4,857	1,095	1,035	2,130	3,598	3,389	6,987
昭和48年度	11	6	17	145	63	208	220	124	344	2,498	2,352	4,850	1,123	1,037	2,160	3,621	3,389	7,010
昭和49年度	10	6	16	145	64	209	217	135	352	2,636	2,416	5,052	1,179	1,146	2,325	3,815	3,562	7,377
昭和50年度	10	6	16	149	66	215	221	135	356	2,726	2,458	5,184	1,199	1,197	2,396	3,925	3,655	7,580
昭和51年度	11	7	18	150	68	218	205	137	342	2,693	2,552	5,245	1,266	1,222	2,488	3,959	3,774	7,733
昭和52年度	12	7	19	157	68	225	237	139	376	2,761	2,678	5,439	1,323	1,217	2,540	4,084	3,895	7,979
昭和53年度	12	7	19	159	69	228	232	141	373	2,809	2,746	5,555	1,381	1,252	2,633	4,190	3,998	8,188
昭和54年度	12	7	19	162	69	231	239	143	382	2,937	2,876	5,813	1,343	1,248	2,591	4,280	4,124	8,404
昭和55年度	12	7	19	165	73	238	247	150	397	2,989	2,869	5,858	1,441	1,331	2,772	4,430	4,200	8,630
昭和56年度	12	7	19	170	76	246	256	156	412	3,020	2,937	5,957	1,492	1,359	2,851	4,512	4,296	8,808
昭和57年度	11	7	18	168	79	247	256	159	415	3,055	2,931	5,986	1,549	1,445	2,994	4,604	4,376	8,980
昭和58年度	11	8	19	166	80	246	250	166	416	3,030	2,845	5,875	1,517	1,493	3,010	4,547	4,338	8,885
昭和59年度	11	8	19	159	80	239	244	165	409	2,970	2,742	5,712	1,494	1,517	3,011	4,464	4,259	8,723
昭和60年度	11	8	19	154	82	236	239	168	407	2,826	2,645	5,471	1,538	1,517	3,055	4,364	4,162	8,526
昭和61年度	11	8	19	152	80	232	230	167	397	2,671	2,537	5,208	1,555	1,460	3,015	4,226	3,997	8,223
昭和62年度	11	8	19	152	83	235	225	166	391	2,524	2,305	4,829	1,526	1,476	3,002	4,050	3,781	7,831
昭和63年度	11	8	19	147	75	222	222	164	386	2,310	2,173	4,483	1,450	1,384	2,834	3,760	3,557	7,317
平成元年度	11	8	19	143	77	220	222	160	382	2,196	2,085	4,281	1,370	1,357	2,727	3,566	3,442	7,008
平成2年度	11	8	19	142	76	218	215	156	371	2,085	2,029	4,114	1,330	1,256	2,586	3,415	3,285	6,700
平成3年度	11	8	19	138	76	214	212	164	376	2,004	1,942	3,946	1,286	1,224	2,510	3,290	3,166	6,456
平成4年度	11	8	19	134	73	207	212	154	366	1,884	1,884	3,768	1,258	1,153	2,411	3,142	3,037	6,179
平成5年度	11	8	19	127	72	199	213	159	372	1,822	1,841	3,663	1,199	1,066	2,265	3,021	2,907	5,928

小中学校の学校数・学級数等の推移(平成6年～令和3年)

各年5月1日現在

()内は特別支援学級児童生徒数及び学級数の内数

区分 年次	学校数			学級数			教職員数			小学校			中学校			合計		
	小	中	計	小	中	計	小	中	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成6年度	11	8	19	124	69	193	201	148	349	1,773	1,771	3,544	1,110	1,042	2,152	2,883	2,813	5,696
平成7年度	11	8	19	124	68	192	201	151	352	1,738	1,739	3,477	1,028	995	2,023	2,766	2,734	5,500
平成8年度	11	8	19	120	65	185	200	149	349	1,717	1,637	3,354	984	1,010	1,994	2,701	2,647	5,348
平成9年度	11	8	19	115	63	178	198	148	346	1,662	1,544	3,206	965	968	1,933	2,627	2,512	5,139
平成10年度				(5)	(4)	(9)						(9)			(6)			(15)
平成10年度	9	6	15	109	59	168	192	141	333	1,621	1,493	3,114	909	936	1,845	2,530	2,429	4,959
平成11年度				(4)	(4)	(8)						(8)			(9)			(17)
平成11年度	9	6	15	106	59	165	234	142	376	1,571	1,434	3,005	878	854	1,732	2,449	2,288	4,737
平成12年度				(7)	(4)	(11)						(12)			(11)			(23)
平成12年度	9	6	15	110	57	167	192	139	331	1,556	1,413	2,969	839	833	1,672	2,395	2,246	4,641
平成13年度				(8)	(5)	(13)						(16)			(11)			(27)
平成13年度	9	6	15	108	57	165	193	136	329	1,499	1,369	2,868	832	824	1,656	2,331	2,193	4,524
平成14年度				(8)	(5)	(13)						(20)			(8)			(28)
平成14年度	9	6	15	108	56	164	194	135	329	1,456	1,350	2,806	819	773	1,592	2,275	2,123	4,398
平成15年度				(12)	(5)	(17)						(23)			(12)			(35)
平成15年度	9	6	15	111	53	164	191	135	326	1,399	1,383	2,782	806	705	1,511	2,205	2,088	4,293
平成16年度				(12)	(7)	(19)						(25)			(14)			(39)
平成16年度	9	5	14	110	49	159	206	117	323	1,366	1,397	2,763	762	640	1,402	2,128	2,037	4,165
平成17年度				(16)	(6)	(22)						(29)			(11)			(40)
平成17年度	9	5	14	113	47	160	211	114	325	1,343	1,396	2,739	729	644	1,373	2,072	2,040	4,112
平成18年度			0	(17)	(7)	(24)						(32)			(11)			(43)
平成18年度	9	5	14	112	52	164	203	114	317	1,321	1,365	2,686	719	640	1,359	2,040	2,005	4,045
平成19年度				(19)	(9)	(28)						(36)			(12)			(48)
平成19年度	8	5	13	111	51	162	171	102	273	1,310	1,308	2,618	718	679	1,397	2,028	1,987	4,015
平成20年度				(18)	(10)	(28)						(35)			(18)			(53)
平成20年度	8	5	13	110	51	161	155	94	249	1,297	1,306	2,603	706	666	1,372	2,003	1,972	3,975
平成21年度				(17)	(9)	(26)						(37)			(18)			(55)
平成21年度	8	5	13	108	51	159	168	104	272	1,276	1,259	2,535	653	650	1,303	1,929	1,909	3,838
平成22年度				(17)	(9)	(26)						(41)			(23)			(64)
平成22年度	8	5	13	108	50	158	172	105	277	1,323	1,232	2,555	615	657	1,272	1,938	1,889	3,827
平成23年度				(16)	(9)	(25)						(40)			(20)			(60)
平成23年度	8	5	13	107	47	154	168	99	267	1,307	1,210	2,517	589	647	1,236	1,896	1,857	3,753
平成24年度				(15)	(8)	(23)						(47)			(18)			(65)
平成24年度	8	5	13	104	46	150	173	97	270	1,286	1,189	2,475	591	597	1,188	1,877	1,786	3,663
平成25年度				(15)	(9)	(24)						(42)			(17)			(59)
平成25年度	8	5	13	105	46	151	174	97	271	1,287	1,159	2,446	604	557	1,161	1,891	1,716	3,607
平成26年度				(15)	(10)	(25)						(48)			(26)			(74)
平成26年度	8	5	13	102	44	146	169	96	265	1,279	1,123	2,402	595	550	1,145	1,874	1,673	3,547
平成27年度				(19)	(10)	(29)						(49)			(29)			(78)
平成27年度	8	5	13	105	45	150	173	98	271	1,265	1,132	2,397	595	544	1,139	1,860	1,676	3,536
平成28年度				(21)	(11)	(32)						(56)			(32)			(88)
平成28年度	8	5	13	106	49	155	175	102	277	1,160	1,079	2,239	629	556	1,185	1,789	1,635	3,424
平成29年度				(22)	(11)	(33)						(76)			(29)			(105)
平成29年度	8	5	13	107	45	152	175	98	273	1,130	1,056	2,186	606	522	1,128	1,736	1,578	3,314
平成30年度				(20)	(11)	(31)						(67)			(32)			(99)
平成30年度	8	5	13	105	44	149	173	95	268	1,094	1,045	2,139	590	500	1,090	1,684	1,545	3,229
令和元年度				(20)	(10)	(30)						(63)			(30)			(93)
令和元年度	8	5	13	105	42	147	172	92	264	1,075	1,016	2,091	573	464	1,037	1,648	1,480	3,128
令和2年度				(18)	(10)	(28)						(63)			(27)			(90)
令和2年度	8	5	13	99	43	142	161	92	253	1,028	957	1,985	573	462	1,035	1,601	1,419	3,020
令和3年度				(20)	(9)	(29)				(55)	(14)	(69)	(17)	(5)	(22)	(72)	(19)	(91)
令和3年度	8	5	13	98	44	142	160	95	255	987	905	1,892	566	466	1,032	1,553	1,371	2,924


登別市立幌別小学校

		特色 ・学校・地域・保護者が一体となって子どもを育むコミュニティ・スクール ・教材園での栽培活動 ・花の植替などのボランティア活動 ・外国人との交流を通じた国際理解教育 ・I C T活用による情報活用力の向上 ・全校一斉に取り組む朝読書・朝学習 ・地域との交流「学校地域協働本部事業」 田植え、稲刈り、収穫祭、乗馬体験 ・高学年外国語科における専科指導
創立年月日	明治14年6月14日	研究主題 自ら問いかけ、考えを深める子の育成 ～主体的に考える算数科の授業の在り方～ ○児童の主体的な活動を促す授業づくり ○児童の学びを深める授業づくり
所在地	登別市中央町6丁目19番地1	
電話・FAX	Tel 85-2521 Fax 85-2522	
校長名	柴田 政人	
教頭名	鈴木 貴雄	
児童生徒数	255名	学 校 沿 革 の 略 歴 明治 14. 6 室蘭常盤学校分校として創立 15. 10 幌別学校と称し、独立開校する。 38. 4 登別小学校分離 大正 6. 4 高等科を併置、補習学校廃止 15. 7 幌別青年訓練所併設 昭和 6. 6 開校50周年記念式典 22. 4 幌別小学校と改称 27. 7 幌別西小学校分離 30. 1 校舎焼失（幌別西小、幌別中で間借り授業） 30. 11 校舎新築落成 校歌制定 45. 4 幌別東小学校分離 56. 10 開校100周年記念式典 59. 4 言語治療教室開設 平成 5. 12 新校舎改築工事完成 6. 9 新校舎落成記念式典 9. 2 胆振管内教育実践表彰受賞 10. 2 北海道教育実践論文全文掲載 11. 3 北海道教育実践表彰受賞 13. 9 開校120周年記念式典 14. 11 体育館屋根・壁全面改修 15. 4 読書活動優秀実践校文部科学大臣表彰 17. 11 第36回博報賞「国語・日本語部門」受賞 23. 9 開校130周年記念児童集会 24. 4 道教委「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校 11 体育館耐震化工事完成 27. 3 平成26年度胆振管内教育実践表彰受賞 29. 2 平成28年度北海道教育実践表彰受賞 30. 1 平成29年度文部科学大臣優秀教職員表彰受賞 令和 2. 4 学校力向上に関する総合実践事業地域指定中核校 外国語科専科開始 3. 11 開校140周年記念動画公開
職員数	24名	
敷地面積	27,336m ²	
学校教育目標	21世紀に生きるため、豊かな人間性の育成をめざし、児童一人一人個性豊かな能力を生かして心身ともに健全な日本国民の育成にあたる。 ○すすんで学び よく考える子 ○互いに助け合い 思いやる子 ○丈夫な体で たくましく生き抜く子	
学校経営方針・今年度の重点	【学校経営の基本的考え方】 ○子供理解に基づく授業や共感的理解に立った生徒指導、生き生きと活動できる場の設定など「 教育活動を深化する学校づくり 」の推進 ○「挨拶や返事、整える」ができ、自己肯定感有用感、一生懸命の心態度、円満な関係を築く思いやりをもった「 自立・自律できる子ども 」の育成 ○早寝早起き朝ご飯の習慣や家庭での学習習慣の形成を図り、子どもの学びと安全を見守る「 愛情で包む家庭、見守る地域 」との協働 【学校経営の重点】 〈子どもの未来を支える学校を目指して〉 ア. 安心・安全な学校生活 イ. 学力保障（授業） ウ. 元気な毎日、健康な体 運営面：地域・学校・家庭が一体となった「学びの環境」づくり 指導面：確かな学力・豊かな心・健やかな体をバランスよく育む教育活動の推進	
	【学校経営の指針】 〈知力・心力・体力を一体とした子どもの総合的な学力形成の実現〉 ⇒授業（指導）を起点に、学んだこと身に付けたことを発揮・定着・進化する場があり、さらに成長・変容を実感できる場の連動性、連続性をもった教育活動を展開する。	


登別市立幌別西小学校

		特色ある教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別少人数指導（算数科） ・西陵中学校区小中一貫教育推進事業（出前授業、教職員合同会議、生徒指導交流、他） ・コミュニティ・スクール推進事業 ・土曜授業の実施（津波避難訓練、お迎え訓練、短縄記録会） ・明日中等教育学校英語サポート（全学年） ・学校力向上総合推進事業 ・放課後の学習サポート ・ふれあい清掃（親子清掃）おたすけ清掃
創立年月日	昭和27年6月1日	
所在地	登別市片倉町5丁目13番地	研究主題 <p>主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり ～児童が学びを実感できる学習活動の工夫をとおして～</p>
電話・FAX	TEL 85-2364 Fax 85-2025	
校長名	小原 毅	
教頭名	荒木 美由紀	
児童生徒数	287名	
学級数	普通11 特別4 計15学級	学校沿革の略歴
職員数	23名	
敷地面積	35,544m ²	昭和
学校教育目標 <p>心豊かでたくましく生きぬく 実践力のある人間の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進んで勉強する子 ○やさしく思いやりのある子 ○くじけないでやりぬく子 ○進んで体力づくりをする子 	子どもの総合的な学力形成を実現する学びの循環づくり ～子どもの笑顔を作り出す学校～ 方針 <ol style="list-style-type: none"> 1. 保護者・地域と一体となり地域に根ざした教育活動の推進【地域との連携・協力体制の確立】 2. 「分かった」「できた」を実感し、楽しく学び合える学校【知徳体の総合的な学力形成】 3. 教職員が協働性を発揮し、互いに高められる学校【協働し切磋琢磨による職能意識の向上】 4. 教育環境に配慮した安全・安心な学校【安全性や教育効果の向上・気付き】 	26. 8 幌別小学校来馬分校として発足 27. 6 幌別西小学校として独立認可 33.10 屋内体育館落成 37. 7 開校10周年記念式典 40.11 プール完成 52. 4 通学区変更により青葉小学校が分離 54. 3 新校舎第1期工事完成 55. 3 新校舎第2期工事完成 56. 7 道P連会長表彰受賞、PTA全国協議会会長表彰受賞（11月） 57. 9 開校30周年記念式典 59. 2 屋内体育館改築工事完了 60. 8 三線校舎内部改築工事完了 62. 4 情緒障害児学級新設 63. 5 ベルマーク収集100万点を達成し表彰を受ける。
		学校経営方針・今年度の重点


登別市立鷺別小学校

		特色 ・伝統芸能「鷺別子ども獅子舞」の継承 ・ひなわしデー（地域・保護者の方の自由参観日）の実施（年2回） ・朝学習「鷺チャレ」と放課後子ども学習塾による基礎・基本の確実な定着 ・朝読書、学校司書による読書活動の推進 ・「鷺別子ども見守りたい」による登校・下校の引率と安全指導
創立年月日	明治23年4月1日	研究主題 意欲をもち、進んで学び続ける子の育成 ～一人一人が学びを実感できる授業づくり～ ・国語・道徳に重点を置いた授業改善 ・主体的・対話的で深い学びの実現
所在地	登別市鷺別町4丁目36番地21	
電話・FAX	TEL 86-7011 Fax 86-2817	
校長名	久 葉 忠 男	
教頭名	秋 葉 洋 範	
児童生徒数	253名	
学級数	普通10 特別2 計12学級	
職員数	22名	
敷地面積	26,330m ²	学校沿革の略歴 明治 15. 8 常盤小学校鷺別分校として創立 10 幌別小学校鷺別分校に名称変更 19. 4 戸数減少で廃校 23. 3 幌別小学校鷺別分校として再開校することが決定される。 34. 4 鷺別尋常小学校と称する。 昭和 10. 4 鷺別尋常高等小学校と称する。 16. 4 鷺別国民学校と改称される。 18. 9 屋内体育館及び4教室増築 22. 4 鷺別小学校と改称される。 35.10 開校70周年記念式典 46. 4 若草小学校（通学区分離）が分離開校 54.10 開校90周年記念式典 60.10 学校プール完成 平成 元. 5 開校100周年記念式典 3. 3 道教育庁生涯学習まちづくり百選に「鷺別子ども獅子舞保存会」が選定 4.11 胆振教育局研究指定公開研究会開催 8.11 胆振教育局研究指定公開研究会開催 11. 9 コンピュータ室新設 13. 4 学童ボランティア活動普及事業と力校指定情報教育推進協力校の指定 16. 4 「子どもと親の相談員」活用調査研究指定 17. 8 学校前花壇整備で日本道路協会より表彰 22. 1 一線校舎トイレ洋式化完了 25. 2 スキー授業開始 30. 6 新校舎落成記念運動会 30. 9 新校舎落成記念式典 30.11 新校舎落成・開校130周年記念及び平成29・30年度胆振管内小・中学校教育実践研究奨励校・平成29・30年度登別市教育実践研究奨励校公開研究会開催 令和 元.10 開校130周年記念学芸会開催 2.11 「絆づくりメッセージコンクール」にて胆振教育局審査員特別賞受賞
学校教育目標	豊かな心情をつちかい、活動力に満ちた健康な心身の育成を図る ○よく協力し、思いやりのある子 ○健康でねばり強い子 ○自分で考え、正しく判断し、実践する子	
学校経営方針・今年度の重点	学校経営の方針 1. 進化した学びの実現【生きる力を育む】 2. 教育のイノベーションへの対応【変革】 3. 安全・安心な学校生活の実現 今年度の重点 1. 学力の向上 (1) 授業改善 (2) 家庭・地域の教育力の活用 (3) 読書の日常化 (4) 特別支援教育の充実 2. 豊かな心・健やかな体の取組 (1) 道徳教育の充実 (2) 豊かな体験活動 (3) いじめのない学校づくり (4) 不登校への対応 (5) 体力づくり (6) キャリア教育の充実 (7) 幼保小中高大専門学校との連携 3. 信頼される学校づくり：地域との絆を深める (1) 安心・安全な学校づくり (2) 学校力の向上 (3) 地域とともにある学校づくりの推進	


登別市立富岸小学校

		特色ある教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り清掃（全学年） ・世代間交流（1年） ・畑の先生との栽培活動（2年） ・キウシト湿原での活動（3年・特支） ・アイヌ文化・芸能の伝承（4年） ・スキー指導（5・6年） ・図書ボランティア活動（全学年） ・あったか富岸小運動（全学年） ・富岸川あそび（7月） ・親子もちつき会（1月） ・地域及びPTAによる登下校安全指導
創立年月日	明治29年5月1日	
所在地	登別市富岸町2丁目17番地4	研究主題 『読みの力を身に付け、豊かに表現する子の育成』 ～「言葉による見方・考え方」を働かせる 言語活動の充実を通して～
電話・FAX	TEL 86-6303 Fax 86-0904	
校長名	神谷博達	
教頭名	南正彦	
児童生徒数	365名	
学級数	普通12 特別4 計16学級	
職員数	25名	学校沿革の略歴 明治 29. 5 室蘭郡私立チリ別小学校分校として創立 33. 5 幌別郡公立富岸簡易教習所と改修独立 大正 5. 3 鷺別小学校に吸収合併 11. 4 鷺別小学校付属富岸特別教授場として復校 昭和 8. 4 富岸尋常小学校として独立 36. 校舎新築移転 51. 3 体育館新築落成 53. 4 校舎新築移転、通学区変更 60.10 開校90周年記念式典 63. 9 カナダロバートランドル小と姉妹校提携 平成 2.10 全道学級経営研究会・登別大会開催 3. 3 学童ボランティア活動普及事業協力校指定 3. 4 文部省「奉仕等体験学習研究推進指定校」 5. 2 胆振教育局教育実践表彰受賞 11 PTAが全国表彰を受賞 7.10 開校100周年記念式典 9.12 北海道花いっぱい運動奨励賞を受賞 16.11 文科省「学力向上フロンティアスクール」公開研開催 17. 2 胆振教育局教育実践表彰受賞 18. 2 北海道教育実践表彰受賞 19.11 登別市教育実践奨励校公開研究会開催 24. 8 校舎屋上・理科室床改修工事完了 26. 1 体育館耐震化改修工事完了 27.11 登別市教育実践研究奨励校 登別市・白老町地域連携研究主体校 胆振管内小中学校教育実践研究奨励校 開校120周年記念公開研究会開催 30. 4 登別市教育実践奨励校 30. 7 校舎耐震・外壁・屋上防水工事開始 30.10 校舎屋上防水工事完了 30.12 校舎耐震・外壁工事完了 令和 元.11 登別市教育実践奨励校公開研究会開催
敷地面積	29, 891m ²	
学校教育目標	○思いやりのある子 ○深く考える子 ○からだを鍛える子	
学校経営方針・今年度の重点	〈学校経営の方針〉 子どもが伸びる学校を目指して ・安心安全な学校生活 自己肯定感と有用感を育む学級経営と積極的な生徒指導 ・学力保障 「分かった」「できた」「見付けた」「使えた」の実感のある学習指導（授業） ・元気な毎日・健康な身体 日常的な望ましい生活習慣、生活態度の確立 〈学校経営の指針〉 知力・心力・体力を一体とした子どもの「総合的な学力」形成 〈目指す学校像〉 『つなげる（連動）』と『掘り下げる（深化）』 〈経営の重点〉 ・教職員の相互理解と協力による共同体制確立と学校経営参画 ・充実した教育課程の編成・実施・評価・改善 ・支持的風土、共感的理解に基づき安心・安全を創り出す学級・学年経営 ・教育環境の整備 ・実践的な研修活動の充実 ・危機的意識をもって健康・安全指導の徹底 ・学校備品、諸経理の有効な運用 ・家庭、地域、関係機関との連携	


登別市立登別小学校

		特色ある教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・町内会の協力を得たふるさと農園実施 ・児童会によるリングプル回収活動 ・外国語活動、国際理解教育の推進 ・図書ボランティアによる読み聞かせ ・すもう学習の実施 ・マーチングバンドによる活動 ・学校裏山を利用したスキー学習 ・外国人観光客に向けた学校紹介などによるふるさと観光教育の推進。
創立年月日	明治25年8月10日	研究主題 確かな読みの力を身に付け、言葉で豊かに表現する子どもの育成 ～「言葉による見方・考え方」を育む授業づくりを通して～
所在地	登別市登別本町3丁目25番地2	
電話・FAX	TEL 83-1014 Fax 83-1423	
校長名	松田周一	
教頭名	武田紳	
児童生徒数	121名	学校沿革の略歴 明治 25. 8 幌別尋常小学校登別分校として創立 28. 4 公立登別尋常小学校として改称・独立 38. 4 登別温泉簡易教育場が本校より独立 44. 2 蘭法華（現富浦地区）特別教授所開設 大正 2. 2 蘭法華特別教授場を本校に合併 9. 3 高等小学校併置認可 昭和 16. 4 登別国民学校と改称 22. 4 登別小学校と改称 27.11 胆振管内道徳研究会開催 36. 9 開校70周年記念式典開催 45. 鉄筋コンクリート一線校舎新築 46. 鉄筋コンクリート二線校舎新築 53. 8 文部省指定学校歯科保健活動開始 58.10 文部省指定1年次道徳研究会開催 61. 6 家庭教育学級開設 62. 7 土俵完成、土俵開き、相撲大会（9月） 平成 元.10 第一期校舎改修工事完了 2.10 第二期校舎改修工事完了 3.10 開校100周年記念式典開催 11. 2 コンピュータルーム新設 14. 3 胆振管内教育実践表彰受賞 15.10 北海道歯科保健優良校表彰STV賞受賞 18. 4 コミュニティ・スクール推進事業調査研究校を受理 18.10 北海道歯科保健優良校表彰優秀賞受賞 19. 4 登別温泉小学校との校区一体化 22. 9 すもう飛翔櫓再建落成式 23.11 開校120周年公開研究会の実施 24.10 二線校舎一階に「登別児童クラブ」開設 25. 7 耐震化のため体育館改修工事（～11月） 9 地震・津波想定三校合同避難訓練 26. 7 飛翔櫓補修 10 北海道学校歯科保健優良校表彰優秀賞受賞 北海道学校歯科保健優良校表彰優秀賞受賞 27.10 北海道学校歯科保健優良校表彰優秀賞受賞 27.11 登別市教育実践研究奨励校公開研究会 28.10 全日本歯科保健優良校表彰奨励賞受賞 29.10 全日本歯科保健優良校表彰奨励賞受賞 11 登別市教育実践研究奨励校公開研究会 30.11 北海道警察音楽隊による演奏会開催 12 全日本歯科保健優良校表彰奨励賞受賞 令和 元. 7 校舎耐震補強・外壁改修・屋根改修工事開始 元.10 全日本歯科保険優良校表彰奨励賞受賞 2. 3 校舎耐震補強・外壁改修工事完了
職員数	13名	
敷地面積	37,173m ²	
学校教育目標	丈夫な体と豊かな心をもって、意欲的にたくましく生きる子 ○よく考える子（知） ○からだをきたえる子（体） ○なかよく助け合う子（徳） ○がんばりぬく子（意）	
学校経営方針	学校経営方針 「地域を愛し、確かな学力と豊かな心を高め、未来に向かってたくましく生き抜く子どもを育てます。」 学校経営の Keyword【最重点項目】 人をつなぐ ○地域学校協働本部、CSや保護者と課題を共有した取組の推進 ○幼保小、小中の連携の一層の推進 ○地域の教育力を活かした学びの推進 学びをつなぐ ○主体的・対話的で深い学びを目指す授業改善 ○研修3年次のまとめく公開研究会の開催 ○一人一台端末を活用した授業力の向上と校務のデジタル化 未来へつなぐ ○学校の新しい生活様式を踏まえた教育活動の継続 ○保護者や中学校と連携した基本的な学習・生活習慣の定着 ○開校130周年事業に向けた事業の推進	

登別市立幌別東小学校

		特色ある教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・学校・地域・保護者が一体となって子どもを育むコミュニティ・スクール ・校外班による校区の清掃活動 ・郷土の文化や伝統を生かす「駒踊り」の伝承 ・放課後子ども塾「東っ子」の取り組み ・リングプルの回収を通したりサイクル活動 ・朝学習チャレンジタイムの実施（毎朝10分） ・朝読書の励行（毎朝10分） ・年4回土曜授業の実施 ・全校児童縦割班による日常的な清掃活動
創立年月日	昭和45年4月1日	研究主題 豊かな心を育む道德教育の充実 ～主体的に考え、議論する道德科の授業改善～
所在地	登別市幌別町8丁目16番地1	
電話・FAX	TEL 85-3532 Fax 85-9053	
校長名	猪子雅司	学校沿革の略歴
教頭名	藤井弘道	昭和
児童生徒数	75名	45. 4 幌別小学校から分離開校する。
学級数	普通6 特別2 計8学級	10 屋内体育館完成
職員数	13名	11 開校落成式
敷地面積	27,897m ²	46. 5 特殊学級開設認可
学校教育目標 ○心身ともに健康な子どもになります。 ○よく考える子どもになります。 ○一生懸命やり抜く子どもになります。 ○みんな仲良くする子どもになります。	学校経営方針・今年度の重点 学校課題 ～子どもたちの健やかな成長と地域とともにある学校づくり～ 【学校経営方針】 方針1「確かな学力の向上」 重点1：教育課程の確実な推進 重点2：学力の実態把握 重点3：個別最適な学びの提供と協働的な学びの実現 重点4：基礎基本の定着 重点5：授業改善の取組 重点6：ICT機器の日常的な活用 重点7：学習習慣の確立 重点8：特別支援教育の充実 方針2「豊かな心と健やかな体の育成」 重点1：道德教育の充実 重点2：読書活動の充実 重点3：自分も他人も尊重する心を育てる生徒指導の充実 重点4：基本的生活習慣の確立 重点5：体力づくりの工夫と推進 方針3「信頼される学校づくり」 重点1：安全・安心な学校づくり 重点2：学校力・教師力の向上 重点3：開かれた学校づくり 重点4：幼保小、小小、小中連携の強化とキャリア教育の充実	47. 8 屋外プール完成
		49. 2 胆振管内教育振興実践表彰受賞
		51. 10 校舎前庭に交通公園完成
		53. 2 北海道教育実践表彰受賞
		3 登別市教育文化貢献表彰受賞
		11 全国表彰「博報賞」受賞
		54. 10 開校10周年記念式典
		56. 3 北海道教育実践論文全文掲載
		59. 10 教育大附属函館小学校と共同研究による公開研究会開催
		63. 10 教育大附属函館小学校と共同研究による道德公開研究会開催
		63. 11 パイプ建設に伴い、学校プール移転新設平成
		元. 12 開校20周年記念式典挙行
		文部省指定道德共同推進校公開研究会
		6. 1 文部省主催教育課程全国研究発表
		9. 8 体育館暖房施設設置
		11. 9 市民憲章花壇コンクール最優秀賞受賞
		15. 2 児童・生徒ボランティア活動普及事業実践発表
		12 全道「花いっぱいコンクール」優秀賞受賞
		18. 2 胆振管内教育実践表彰受賞
		20. 2 北海道教育実践表彰受賞
		23. 10 放課後子ども教室「はまなすメイト」開設
		25. 7 国道側フェンス改修工事(災害復旧)
		26. 4 学校運営協議会設置
		10 鉄南地区地域合同避難訓練に土曜授業として参加する。
		28. 12 郷土芸能「幌別駒おどり」幌別地区市民演芸会にて全校発表
		令和
		元. 12 開校50周年記念式典挙行
		2. 8 校舎耐震補強工事開始
		3. 1 校舎耐震補強工事完了

登別市立若草小学校

		特色ある教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・驚別中学校区における小中一貫教育の推進 ・自動車学校等と連携した交通安全教室 ・短縄記録会と長縄記録会 ・委員会によるリングブル収集 ・読書活動の推進と「読書の木」の取組 ・土曜授業の実施 ・学校運営協議会とPTAが一体となった若草小学校コミュニティ・スクール ・ふれあい農園・教材園を活用した栽培活動 ・放課後子ども学習塾の実施 ・町内会との合同津波避難訓練 ・外部講師による全学年での食育授業 ・外部講師による福祉の体験学習 ・HPによる教育活動のお知らせ 	
創立年月日	昭和46年4月1日		
所在地	登別市若草町1丁目1番地2		
電話・FAX	TEL 86-7513 Fax 86-5440		
校長名	大熊 龍也	研究主題 <p>主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり</p> <p>～主体的・対話的で深い学びを実現する手立ての共有～</p>	
教頭名	川股 正揮		
児童生徒数	295名		
学級数	普通11 特別2 計13学級	学校沿革の略歴	
職員数	21名	昭和	
敷地面積	25,707m ²	46.4 若草小学校創立	
学校教育目標 <p>知徳体の調和のとれた 人間性豊かな子どもをはぐくむ</p> <p>○たくましい子……やる気(創造的態度)</p> <p>○考える子……やる力(創造力)</p> <p>○健康な子……やる人(創造的人格)</p>	学校経営方針・今年度の重点 <p>【方針】 ～保護者・地域との共育により 笑顔いっぱいわくわく いっぱいやさしい学校づくりを目指して～ ◇目指す学校像 4つのW(わくわく)のある学校 子どもにとってわくわくする魅力ある学校 保護者にとってわくわくする魅力ある学校 地域にとって わくわくする魅力ある学校 教職員にとってわくわくする魅力ある学校 ◇目指す子ども像 4つのW(わ) わかるまで考えを伝え合い、夢中で学習や活動に取り組む子(知) わかさいっぱい、元気よく心と体を磨き自分を輝かせる子(体) わを大切に思いやりをもち、みんなで心と心をつなげる子(徳) われ(自分)を大切にできる子(徳)</p> <p>◇教師の基本姿勢として(授業) 4つのW(わ) わくわくどきどき目標が明確で、見通しをもたせる授業 わかりやすく問題解決的な授業 わいわいしながら練り合い高め合う授業 わかるまで定着・まとめを確実に授業</p> <p>◇教師の基本姿勢として(組織) 4つのW(4WD) フットワーク 報告連絡相談 前始末 率先垂範 ネットワーク 迅速誠実丁寧 協働 チームワーク 共通理解・共通指導 凡事徹底 美点凝視 ロードワーク 学び続ける姿勢</p> <p>【重点】 重点1：確かな学力の定着 重点2：豊かな心の育成 重点3：健やかな体の育成 重点4：特別支援教育の充実 重点5：地域と連携した教育活動の充実 特別重点：安心・安全な学校 重点0：児童と向き合うための働き方改革の推進</p>	46.5 父母と先生の会発足	
		48.8 プール完成 54.3 胆振管内教育実践表彰を受ける。 55.4 特殊学級認可 55.10 開校10周年記念式典 56.8 大雨により被害を受ける。 58.3 新校舎増築完成	
平成 10 開校20周年記念式典 7.8 白石市へまめ記者訪問する 9.8 3階和室新設 11.3 情緒障害児学級認可 12.11 開校30周年記念式典 13.1 コンピュータインターネット配線完了 14.3 校舎大規模改修工事着工 15.12 校舎大規模改修第1期工事終了 16.10 校舎大規模改修第2期工事終了 17.1 校舎全面使用 17.3 特別支援学級2学級認可 22.4 開校40周年記念運動会 23.3 東日本大震災への募金活動(児童会) 26.6 学校運営協議会(コミュニティスクール)発足 26.11 平成25・26年度胆振管内小・中学校教育実践研究奨励校 指定 平成25・26年度登別市教育実践研究奨励校指定公開研究会開催 27.4 平成27・28年度登別市教育実践研究奨励校指定(道徳科研究) 29.5 平成29・30年度登別市教育実践研究奨励校指定(道徳科研究) 29.8 平成29・30年度胆振管内小・中学校教育実践研究奨励校指定(道徳科研究) 31.1 平成30年度北海道道徳教育推進校事業推進校における授業公開・実践発表			
令和 元.12 標準学力調査(CRT)実施 2.2 新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業(3月24日まで) 2.3 分散登校開始(1～5年3回、6年2回) 2.4 新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業(5月17日まで) 2.5 分散登校開始(5月31日まで)			

登別市立青葉小学校



創立年月日	昭和52年4月1日
所在地	登別市青葉町3番地3
電話・FAX	TEL 85-1477 Fax 85-1249
校長名	工藤 信司
教頭名	北尾 稔
児童生徒数	241名
学級数	普通11 特別2 計13学級
職員数	19名
敷地面積	34,626m ²


学校教育目標	『豊かな人間性をめざし心身ともに健康で 自主的・創造的な子どもを育成する』
	○強い子ども(体) 心身共に健康で頑張りぬく子ども ○明るい子ども(徳) 情操豊かで助け合いはげまし合う子ども ○考える子ども(知) 進んで学び、きり拓いていく子ども
学校経営方針・今年度の重点	方針 凡事徹底 ①『主体性・自主性』を育む教育活動の充実 ・授業を核として主体性、自主性を育む ・主体的・対話的で深い学びの実現 ・自尊感情を高める働きかけ (自己肯定感、自己有用感、達成感、成就感) ②地域とともにある学校づくり 『協働・参画』によるコミュニティ・スクールの推進 ・参画意識を高め職員一丸となった取組の推進(チーム青葉) ・保護者、地域との協働・参画による学校運営(コミュニティ・スクール)
	重点 ・「確かな学力」を身につけさせ、知識・技能の積極的な活用を図る授業改善 ・いじめは良くないという認識のもと「豊かな心」を育む教育活動 ・保護者・地域に「信頼される学校」づくり

特色あえる教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい農園による栽培活動 ・牛乳パック・リングプルの回収活動 ・キウシト湿原を活用した環境学習 ・朝読書、ブックサポーターによる読み聞かせ ・外部講師によるクラブ活動 ・地域人材を活用した放課後学習サポート ・世代間交流、入浴体験などの豊かな体験活動 ・地域の牧場斜面を活用した冬の雪遊び
-----------	---

研究主題	<p>主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり</p> <p>～対話を通して考えを深め、伝え合う力をはぐくむ～</p>
------	---

学校沿革の略歴	
昭和	
52. 4	幌別西小学校より分離創立
10	校舎落成記念式典
55. 5	グラウンドに桜苗木を植樹
9	「青葉の森」開き
57. 7	埋蔵文化財発掘体験学習
61. 7	開校10周年記念式典
62. 12	青葉スケートリンク第1回造成活動開始平成
元. 3	ギネス「長縄跳び90人」世界新記録樹立
6. 3	胆振管内教育実践表彰受賞
8. 10	開校20周年記念式典
11. 8	コンピュータ室完成(14台設置)
12. 9	市民憲章花壇コンクール最優秀賞受賞
13. 11	インターネット光ケーブル引込み校内LAN工事完成
16. 3	北海道PTA広報誌コンクール審査員特別賞受賞
4	特別支援学級(情緒障害)開設
18. 3	北海道PTA広報誌コンクール審査員特別賞受賞
12	開校30周年記念式典
21. 1	児童用トイレ完全洋式化
22. 10	体育館耐震化改修工事完了
24. 9	東非常階段全面改修工事完了
25. 8	屋上フェンス災害復旧工事完了
26. 4	学校運営協議会設置(コミュニティ・スクール)
8	鉄棒新設工事完了
27. 11	屋上防水・耐震改修工事完了
12	保健室、職員・児童玄関改修工事完了
28. 1	校舎外壁工事完了
3	西非常階段、校長室、PTA会議室耐震壁工事完了
4	視聴覚室耐震壁工事完了
6	ふれあい坂舗装補修工事完了
8	図書室・家庭科室・2の2耐震壁工事完了
11	開校40周年を祝う会 職員室・放送室・印刷室耐震壁工事完了
29. 2	4の1耐震壁工事完了
	青葉スケートリンク30周年記念祝賀会
3	階段転落防止ネット改修工事完了
30. 1	スキー学習(5.6年生)
11	グラウンドの亀裂修復工事完了
令和	
元. 7	姉妹都市交流「ふるさと豆記者」白石市へ

登別市立幌別中学校

		特色 ・フォーサイトノートの活用 ・地域との合同避難訓練〔今年度は中止〕 ・地域ボランティア（町内会）による校外巡視指導 ・図書ボランティアによる本の整理と貸し出し ・土曜授業 ・小中一貫教育の推進 ・DBA集会 ・習熟度別学習、放課後学習の実施
創立年月日	昭和22年5月1日	研究 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり 主題 ～各教科における、「見方・考え方」を働かせるための学習指導の工夫～
所在地	登別市千歳町3丁目1番地3	
電話・FAX	TEL 85-3111 Fax 85-3112	
校長名	坂本 博	
教頭名	永堀 善之	学校沿革の略歴 昭和 22. 5 幌別小学校の校舎一部を借り、設置認可 26. 7 千歳町132番地（現在地）に新校舎落成 28. 10 校舎前グラント新設 32. 9 開校10周年記念式典 39. 5 屋内体育館落成 32学級 1,450名 42. 4 特殊学級認可 49. 4 西陵中学校分離 52. 10 開校30周年記念式典 59. 10 文部省指定道徳教育協同研究会開催 60. 11 文部省指定生徒指導研究会開催 62. 11 校舎改修第1期工事完成 63. 8 校舎改修工事第2期工事完成 平成 2. 9 文部省指定道徳研究会開催 3. 2 胆振管内教育実践表彰を受賞 4. 10 「社会を明るくする運動」法務大臣より感謝状を受ける。 7. 2 北海道教育実践表彰受賞 8. 2 新屋内体育館竣工 9. 11 開校50周年記念式典 13. 10 胆振おやじサミットを主催 15. 8 「おやじの会」日本PTA全国協議会表彰及び北海道PTA連合会表彰を受賞 16. 11 韓国教育視察団来校 26. 10 文科省 土曜授業推進事業指定 令和 3. 3 校舎耐震化工事終了
敷地面積	37,381m ²	
児童生徒数	144名	
学級数	普通 5 特別 2 計 7 学級	
職員数	16名	
学校教育目標	○体が丈夫で、進んで働く人 ○はきはきと行動し、最後までやりぬく人 ○豊かな心で、新しいものを生み出せる人 ○心のこもったことばづかいや行いのできる人 ○互いに信じ合い、みんなの役に立つ人	
学校経営方針・今年度の重点	目指す学校像 <最上位目標> 「明るい笑顔で 将来の夢の実現に向け 自分の力で歩む学校」 <経営・指導の最重点> 1 全活動を通して「目的：〇〇のために～」 「手段：〇〇を用いて～」 「振り返り：〇〇ができた」を明確に意識させる。 2 「持続可能な」を合い言葉に、意欲を持ち、主体性を生かした取り組みで、やり遂げた喜びを体得させる。 3 「安全安心」や「働き方改革」の視点で、諸活動を見直し、スクラップ&ビルドを図る。 <具体的な手立て> 1 学力向上 2 道徳教育 3 特別活動 4 総合的な学習の時間 5 健康・安全教育 6 特別支援教育 <評価指標：保護者、生徒アンケート、授業アンケート> 1 「明るい笑顔」 ◎学校生活は楽しい～ 90% ○先生と気軽に相談できる～ 80% ○挨拶、礼儀、言葉遣い～ 95% 2 「夢の実現」 ○目標の設定（授ア）～ 90% ◎振り返り（授ア）～ 90% ○授業が分かりやすい～ 90% ○家庭学習への取組～ 80% 3 「自分の力で」 ○ネット、スマホのルール～ 80% ◎フォーサイト計画振り返り 90% ○早寝、早起き、朝ご飯～ 90%	


登別市立鷺別中学校

		特色ある教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・1・2年の数学科における習熟度別少人数指導の実践 ・コミュニティースクールの活動に位置づけた「登下校時の見守り活動」「ボランティアによる消毒活動」「地域の清掃活動」等の学校支援 ・土曜授業（年4回）の実施による地域・家庭と連携した教育活動の充実 ・総合的な学習の時間「ふるさと学習」に位置づけた登別の歴史・文化・産業を学ぶ活動とキャリア教育の推進 ・PTAとボランティア部の協働による花壇整理等の環境整備活動 ・生徒会を中心とした各種のボランティア活動や挨拶運動の推進、生活向上月間の設定 									
<table border="1"> <tr> <td>創立年月日</td> <td>昭和22年5月1日</td> </tr> <tr> <td>所在地</td> <td>登別市鷺別町4丁目36番地6</td> </tr> <tr> <td>電話・FAX</td> <td>TEL 86-7950 Fax 86-7961</td> </tr> <tr> <td>校長名</td> <td>鈴木 恭 朗</td> </tr> <tr> <td>教頭名</td> <td>永 瀧 幸 治</td> </tr> </table>	創立年月日	昭和22年5月1日	所在地	登別市鷺別町4丁目36番地6	電話・FAX	TEL 86-7950 Fax 86-7961	校長名	鈴木 恭 朗	教頭名	永 瀧 幸 治	研究主題 自他を尊重し、より良く生きようとする生徒の育成 ～道徳の時間における主体的・協働的な学びを通して～
創立年月日	昭和22年5月1日										
所在地	登別市鷺別町4丁目36番地6										
電話・FAX	TEL 86-7950 Fax 86-7961										
校長名	鈴木 恭 朗										
教頭名	永 瀧 幸 治										
<table border="1"> <tr> <td>児童生徒数</td> <td>276名</td> </tr> <tr> <td>学級数</td> <td>普通9 特別2 計11学級</td> </tr> <tr> <td>職員数</td> <td>23名</td> </tr> <tr> <td>敷地面積</td> <td>28,904m²</td> </tr> </table>	児童生徒数	276名	学級数	普通9 特別2 計11学級	職員数	23名	敷地面積	28,904m ²	学校沿革の略歴		
児童生徒数	276名										
学級数	普通9 特別2 計11学級										
職員数	23名										
敷地面積	28,904m ²										
<table border="1"> <tr> <td> 学校教育目標 ○健康で明るい人 ○情操豊かな人 ○勤労意欲の強い人 ○真理を愛する人 ○礼儀正しい人 </td> <td> 学校経営方針 1. 『確かな学力を身に付け、より良い鷺中を目指し続ける生徒の育成』 ＊目標をもち、協働的に仲間と課題を解決できる力を育成する。 ＊生徒指導の機能を生かした教育実践を展開し、集団的指導力を育成する。 ＊集団での体験を通して自分を振り返る学習から、協調性と存在意識を育成する。 2. 『組織的な学校運営と業務の効率化を意識した働き方改革の推進』 ＊チームとしての学校の在り方を踏まえ、協働で業務を推進する体制の促進を図る。 ＊部活動の活動時間や退勤時間など、勤務時間を意識した働き方改革に努める。 ＊地域・保護者への理解促進に努める。 1 学習指導の充実 2 生徒指導の充実 3 道徳教育の充実 4 キャリア教育と進路指導の充実 5 特別支援教育の充実 6 健康・安全指導・環境整備の充実 7 特別活動の充実 8 総合的な学習の時間 9 小中一貫教育の充実 </td> </tr> </table>	学校教育目標 ○健康で明るい人 ○情操豊かな人 ○勤労意欲の強い人 ○真理を愛する人 ○礼儀正しい人	学校経営方針 1. 『確かな学力を身に付け、より良い鷺中を目指し続ける生徒の育成』 ＊目標をもち、協働的に仲間と課題を解決できる力を育成する。 ＊生徒指導の機能を生かした教育実践を展開し、集団的指導力を育成する。 ＊集団での体験を通して自分を振り返る学習から、協調性と存在意識を育成する。 2. 『組織的な学校運営と業務の効率化を意識した働き方改革の推進』 ＊チームとしての学校の在り方を踏まえ、協働で業務を推進する体制の促進を図る。 ＊部活動の活動時間や退勤時間など、勤務時間を意識した働き方改革に努める。 ＊地域・保護者への理解促進に努める。 1 学習指導の充実 2 生徒指導の充実 3 道徳教育の充実 4 キャリア教育と進路指導の充実 5 特別支援教育の充実 6 健康・安全指導・環境整備の充実 7 特別活動の充実 8 総合的な学習の時間 9 小中一貫教育の充実	昭和 22. 5 鷺別小学校の一部を借り、設置認可 24.12 新校舎（現在地）完成 25. 1 新校舎使用開始、新校舎落成式 32. 5 開校10周年記念式典 38. 8 新校舎第1期工事完成 41. 8 学校プール完成 42.12 新校舎完成 鉄筋3階建て 45.10 屋内体育館完成 52. 1 管理棟新築完成 9 開校30周年記念式典 54. 2 視聴覚教室改修工事完成 58. 4 緑陽中学校へ一部生徒分離移籍 62. 8 プール撤去 平成 5. 6 コンピュータ室完成 10 和室（潮騒ルーム）完成 9.10 開校50周年記念式典 11 胆振教育局指定公開研究会開催 12. 4 教育相談室電話設置 15.10 税の作文コンクール学校賞受賞 17.10 2. 3校舎FFストーブ取替え工事完成 18. 3 校舎のバリアフリー化完成 24. 8 3線校舎女子トイレバリアフリー化 27. 3 校舎耐震改修工事完成 28.11 胆振管内小・中学校教育実践研究奨励校教育実践発表会 令和 2. 2 登別市教育実践研究奨励校研究会								
学校教育目標 ○健康で明るい人 ○情操豊かな人 ○勤労意欲の強い人 ○真理を愛する人 ○礼儀正しい人	学校経営方針 1. 『確かな学力を身に付け、より良い鷺中を目指し続ける生徒の育成』 ＊目標をもち、協働的に仲間と課題を解決できる力を育成する。 ＊生徒指導の機能を生かした教育実践を展開し、集団的指導力を育成する。 ＊集団での体験を通して自分を振り返る学習から、協調性と存在意識を育成する。 2. 『組織的な学校運営と業務の効率化を意識した働き方改革の推進』 ＊チームとしての学校の在り方を踏まえ、協働で業務を推進する体制の促進を図る。 ＊部活動の活動時間や退勤時間など、勤務時間を意識した働き方改革に努める。 ＊地域・保護者への理解促進に努める。 1 学習指導の充実 2 生徒指導の充実 3 道徳教育の充実 4 キャリア教育と進路指導の充実 5 特別支援教育の充実 6 健康・安全指導・環境整備の充実 7 特別活動の充実 8 総合的な学習の時間 9 小中一貫教育の充実										


登別市立登別中学校

		特色ある教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと学習」の一環として地獄まつりへの参加、郷土芸能「熊舞」「鬼みこし」の取組、登別駅前での観光PR ・全校生徒による町内クリーン作戦 ・幼保小中連携（防災、キャリア教育等） ・地域（町内会）とPTAによるあいさつ一声運動、交通安全指導、防犯巡回 ・PTAによる地域の祭典「わくわく広場のぼりべつ」への出店 ・PTAによる卒業記念「餅つき集会」
創立年月日	昭和22年5月1日	研究主題 自己の課題を見つけ、乗り越えていく力を持った生徒の育成 ～ 協働的な学習を通して ～
所在地	登別市登別本町1丁目1番地1	
電話・FAX	TEL 83-1029 Fax 83-1929	
校長名	寺岡 弘	
教頭名	古沢 真	
児童生徒数	84名	
学級数	普通3 特別2 計5学級	学校沿革の略歴 昭和 22. 5 設置認可 開校式 24. 5 新校舎落成（木造独立校舎） 30. 7 体育館落成 32. 9 開校10周年記念式典 38. 7 新校舎落成（鉄筋コンクリート2階建） 42.10 開校20周年記念式典 45. 2 教育実践優良校として道教委表彰受賞 53. 9 文部省指定生徒指導研究推進校として文部省より感謝状を受ける。 57.11 胆振教育局指定教育課程研究会開催 59.10 文部省指定「道徳教育協同研究推進校」として研究会開催 63.10 全道道徳研究会登別大会授業公開 平成 3.11 校舎大規模改造工事平成3年度分終了 4.11 校舎大規模改造工事平成4年度分終了 6.11 体育館大規模改造工事完了 9.11 開校50周年記念式典 14. 6 漁港清掃で北海道漁港漁協より表彰 15. 9 温泉中学校との交流を開始 16. 4 温泉中学校との統合による教育活動開始 18.11 市教育実践奨励校公開研究会 23.10 体育館耐震化工事完了 26. 4 コミュニティスクール設置 28. 7 平秀里様より吹奏楽部に楽器の寄贈 28. 7 ニッセイ財団より熊舞衣装助成を受ける 29.10 平秀里様より吹奏楽部に楽器の寄贈 30. 1 校舎耐震改修工事完成 令和 2.12 タブレットPC用キャビネット設置 3. 2 タブレットPC搬入
職員数	14名	
敷地面積	30,467m ²	
学校教育目標	○思いやりをもち 厳しさに耐える ○命を大切にし 心身を鍛える ○すすんで学び 正しく判断する 校訓：清く 明るく 大らかに	
学校経営方針・今年度の重点	【学校経営の重点】 生徒の発達段階や個に応じ、自己実現に向けた自己指導能力を育成する。 自己決定 自己存在感 共感的人間関係の構築 『まかせる・ほめる・うけとめる』 【目指す学校像】 ・安全安心な学校 ・楽しく活気のある学校 ・地域に信頼される学校 【目指す生徒像】 ・自分の考えを深め、表現できる生徒 ・自他を大切にし、思いやりを持つ生徒 ・何事にも挑戦し、やり抜く生徒 【目指す教師像】 ・経営参画意識を持ち、組織として協働する教師 ・生徒とともに汗を流す教師 ・教職に対する強い情熱を持ち、生徒の力を引き出せる教師	

登別市立西陵中学校

		特色ある教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間【1年】郷土学習【2年】生き方学習【3年】創作活動 ・PTA主催による合格祈願「餅つき」 ・地域・PTA合同の交通安全挨拶運動 ・外部人材の活用(誕生学、携帯講座等) ・PTAのOB会「清流会」開催 ・小中合同避難訓練(土曜授業) ・読書活動の推進(ビブリオバトルの実施)
創立年月日	昭和49年4月1日	研究主題 「学び合い」を通して自ら学び判断し表現する生徒の育成 ～主体的・対話的で深い学びを通して～
所在地	登別市片倉町5丁目12番地1	
電話・FAX	TEL 85-5041 Fax 85-5085	
校長名	渡辺敬方	
教頭名	内山勇一	
児童生徒数	139名	
学級数	普通6 特別1 計7学級	学校沿革の略歴
職員数	15名	昭和
敷地面積	22,869m ²	49.4 設立開校
学校教育目標 「英知・健康・情操・意志」 ○正しい判断力と豊かな知性をもつ人 ○健康な体とたくましい行動力をもつ人 ○思いやりの心と寛い友情をもつ人 ○ねばり強い根性とくじけない心をもつ人	<重点教育目標> 「共に学び 高め合うこと」 <学校経営の基本姿勢> ◎組織的な学校運営による質の高い教育活動の推進 組織力の向上 学習指導力の向上 生徒指導力の向上	12 体育館一部完成
		<経営上の重点> 1 組織的な学校運営と業務の効率化を意識した働き方改革の推進 2 創意工夫ある教育課程の編成と教育活動の推進 3 学年・学級経営、特別支援教育、生徒指導の充実 4 教師の専門性や指導力を高める研究・研修の充実 5 家庭や地域、関係機関と連携した「地域とともにある学校づくり」の推進 6 危機管理体制の強化と危機管理意識の高揚 7 新学習指導要領の全面実施に向けた対応

登別市立緑陽中学校

		特色ある教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会主体で取り組むSDGs活動 (いじめを許さない生徒の活動) ・地域や小学校と連携した防災活動 ・生徒会、学年委員会を中心とした生活向上活動 ・全学級で朝学習、朝読書の取組 ・全校コンクール「緑中王」による学習意欲の向上
研究主題 「主体的・対話的に学ぶ生徒の育成」 ～学びがわかり深まる 学習指導の工夫・改善をとおして～		学校沿革の略歴 昭和 52. 校地決定 54. 校地造成 57. 校舎完成、体育館完成 58. 4 設立開校 11 落成記念式典 平成 4. 11 開校10周年記念式典 7. 9 コンピュータ21台配置 10. 8 全教室温風ストーブ設置 11. 4 特殊学級(知的障害)開設 6 「大西左友吏」ちゃん文庫開設 12. 8 コンピュータ20台更新・校内LAN設置 13. 11 かんぼ作文コンクール道知事賞受賞 14. 11 開校20周年記念式典 15. 11 かんぼ作文コンクール北海道支社長賞受賞 16. 4 特殊学級(肢体不自由)開設 11 かんぼ作文コンクール北海道支社長賞受賞 17. 10 第4回北海道中学校壁新聞コンクール準大賞受賞 12 税のポスター北海道教育委員会教育長賞受賞 18. 11 第5回道央地区中学校壁新聞コンクール 最優秀賞・優秀賞2年連続受賞 19. 11 道吹奏楽コンクール銀賞 22. 4 図書ボランティア活動開始 24. 4 ボランティア部 第16回ボランティア スピリットアワード コミュニティ賞受賞 25. 12 校舎2階トイレ様式化、障害者用トイレ設置 26. 8 体育館暖房機器設置 27. 8 バドミントン部全国大会出場 28. 8 男子陸上部100m×4R全国大会出場 29. 10 登別市教育実践奨励校公開研究会 30. 8 バドミントン部全国大会出場 30. 10 人権作文札幌地区大会奨励 令和 元. 7 全道柔道大会当番校(工学院体育館会場) 8 バドミントン部全国大会出場 3. 8 バドミントン部・陸上部全国大会出場
創立年月日	昭和58年4月1日	
所在地	登別市富岸町1丁目11番地1	
電話・FAX	TEL 85-5409 Fax 85-5433	
校長名	野崎 均	
教頭名	無量林 高史	
児童生徒数	389名	
学級数	普通12 特別2 計14学級	
職員数	27名	
敷地面積	52,240m ²	
学校教育目標	○豊かな知性を育て真理を求める人 ○美しい心情を育て思いやりのある人 ○強い意思を育て責任をもってやり抜く人 ○健康な心と体を育て明るくたくましい人	
学校経営方針・今年度の重点	【目指す生徒像】 ①自ら考え・自ら動く生徒 ②人を支える生徒 ③諦めない生徒 【今年度アプローチポイント】 ①自己指導力の向上 ②規則正しい生活習慣の確立 【指導の重点】 (1)確かな学力の育成 A 基礎的な知識を身につける B 他者とのかかわりの中で高め合い深め合う C 学んだことを次の課題や生活の場で生かす (2)豊かな心の育成 D 基本的な生活習慣を身につける E お互いの考えを深く理解し合う F 仲間と協力してよりよい生活を気づく (3)健やかな体の育成 G 健康や命を守る知識・技能を身につける H 仲間と力を合わせて健康に過ごす I スポーツマンシップを日常に生かす 【経営の重点】 (1)学習指導 J 個別最適な学びと協働的な学びを実現する (2)生徒指導 K 生徒の心に寄り添った生徒指導を実現する (3)危機管理 L 信頼される学校を実現する	


北海道登別青嶺高等学校

		特色	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6期制による基礎学力の積み上げと自己実現 ○ 進路サポーター制による個に応じた進路指導 ○ あらゆる進路に対応が可能な教育課程 ○ 学校運営協議会の設置 ○ 単位制の導入 ○ 数学・英語において習熟度別少人数授業の展開
		研究主題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究 地理歴史・公民 ○ 教科指導スペシャリストによる授業実践の発表・演習 新学習指導要領を踏まえた学習評価 地理歴史・公民
創立年月日	平成17年4月1日	学校沿革の略歴 【北海道登別高等学校】 昭和 23.10 北海道立室蘭高等学校(現室蘭栄高校)幌別分校定時制課程普通科として開校 27.11 北海道幌別高等学校として独立 36.4 町名変更に伴い北海道登別高等学校と改称 38.4 全日制課程普通科を設置し定時制課程と併置 40.3 道立移管 平成 16.4 定時制課程募集停止 17.4 全日制課程募集停止(登別南と統合のため) 19.3 閉校 【北海道登別南高等学校】 昭和 54.4 北海道登別南高等学校全日制課程普通科として開校(1学年2間口) 55.4 全日制課程普通科1学年3間口 56.4 全日制課程普通科1学年4間口 59.4 全日制課程普通科1学年6間口 平成 3.4 全日制課程普通科1学年5間口 4.4 教育課程に類型制を2学年より導入 8.4 全日制課程普通科1学年4間口 15. 教育課程の類型型を廃止しコース制のみ移行 17.3 閉校式挙行・閉校 【北海道登別青嶺高等学校】 平成 17.4 北海道登別青嶺高等学校全日制課程普通科として開校(登別南高校校舎にて開校) 17.4 開校式・入学式を挙行 全日制課程普通科1学年5間口 19.4 全日制課程普通科1学年4間口 令和 3.4 全日制課程普通科1年次3間口 単位制導入	
所在地	登別市青葉町42-1		
電話・FAX	TEL85-8586 Fax85-8585		
校長名	山城 宏一		
教頭名	内海 千尋		
生徒数	396名		
学級数	11学級		
職員数	35名		
敷地面積	50,353.94m ²		
学校教育目標	<p>「郷土を拓き、未来を創造する人間の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 郷土の人と自然を愛し、文化を守り育てる人間 ○ 心身を鍛え、逆境に立ち向かっていく人間 ○ 知的探究心を備え、未来を展望する人間 		
育成を目指す資質・能力	<p>【資質・能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎的読解力→文章や図表から、意味を適切に理解・解釈・分析し、記述・表現の基礎力の育成 ○ 思考力・判断力・表現力→学びを生かし問題発見・問題解決に取り組む能力・態度の育成 ○ 探究力→「なぜ」の問いに向かい粘り強く考え学びを深め、あきらめずやり抜く能力・態度の育成 ○ 自己受容力→自己理解の深化と自己受容を図り自己受容から他者貢献へとつなぐ力の育成 ○ 主体的行動力→自己の可能性を発揮し自己実現に向け生涯にわたって生き抜く力の育成 ○ 協働力→社会の担い手としての責任感を持ちともに支え合って成し遂げようとする力の育成 <p>【重点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な学習姿勢を身に付け、目標を持って主体的に学力を積み上げる努力をする生徒 ○ 自他を尊重し思いやりの心を持ち、義務と責任を重んじて的確に判断し行動できる生徒 ○ 自己理解を深め、自らの個性と適正に基づいて進路目標を確立し、自己実現を目指す生徒 		
今年度の重点			

北海道登別明日中等教育学校

		<p>○北海道で唯一の道立中等教育学校</p> <p>○6年一貫の教育課程の実施</p> <p>特色ある教育活動</p> <p>○国際理解教育、外国語教育の重視</p> <p>○多様な体験活動の促進</p> <p>○地域や北海道のよさを学ぶ学習活動の促進</p> <p>○異年齢生徒の交流の促進</p> <p>○保護者・地域と連携した教育活動の促進</p> <p>【文部科学省指定事業】</p> <p>地域との協働による高等学校教育改革推進事業 グローバル型</p>
創立年月日	平成19年4月1日	
所在地	登別市片倉町5丁目18-2	
電話・FAX	Tel 0143-85-0351 Fax 0143-85-0353	
校長名	志知 芳彦	
副校長	増田 康広	
教頭名	竹見 純	
生徒数	451名	
学級数	12学級	
職員数	47名	
敷地面積	校舎 42,738.38m ² 寄宿舎 3,493.47m ²	
学校教育目標	<p>学校・家庭・地域社会が連携し、中高一貫教育を行い、「高い知性」「豊かな人間性」「健康な心身」「郷土愛と国際性」を身に付けた、本道の将来を担う人材の育成を目指す。</p>	
学校経営方針・今年度の重点	<p>【方針】</p> <p>(1) 中等教育学校の特色を生かした教育の推進 特色ある教育課程を編成・実施し、道内唯一の道立中等教育学校としての教育を展開する</p> <p>(2) 組織運営体制の確立と教育活動の充実 教職員一人ひとりの力を集結し、組織的に協働意欲に満ちて教育活動推進する活力ある学校をつくる</p> <p>(3) 開かれた学校づくりの推進 特色ある教育活動の積極的な発信と地域と連携した教育活動を行う</p> <p>(4) 信頼される学校づくりの推進 学校評価やマネジメントサイクル等を活用し、教育活動について不断の改善に努める</p> <p>(5) 魅力ある職場環境の確立 教職員が、日々の生活や人生を豊かにし、自らの専門性や人間性を高め、教育の質を向上させるための取組を推進する</p> <p>【重点】</p> <p>(1) 個性や能力の伸長に向けた、きめ細やかな学習指導の充実</p> <p>(2) 生徒の多様化に対応し、健康・安全教育や教育相談活動の充実</p> <p>(3) 地域と保護者との連携を重視した教育活動の充実</p> <p>(4) 国際理解教育、外国語教育などを通し、実践的なコミュニケーション能力や語学力の育成</p> <p>(5) 6年間を見通した計画的な進路指導の充実</p> <p>(6) 年齢の異なった生徒による相互交流とボランティア活動、自然体験活動、芸術鑑賞等、異年齢集団による活動や本物に触れる活動の重視</p>	
研究主題	<p>○AKB Future Project 2nd Stage ～北海道と世界の明日を創る～</p>	
学校沿革の略歴		
<p>平成12年6月 ・北海道教育委員会が策定した「公立高等学校配置の基本指針と見直し」において、「生徒の学校選択の幅を広げる観点から教育長期総合計画の後期実施計画期間内において連携型の実践を踏まえ、高校の再編などを行う中でモデルとなる学校を設置できるように検討する～」と明記</p> <p>平成16年8月・校舎新築工事着工</p> <p>平成18年4月 ・北海道登別明日(あけび)中等教育学校の開校に向け、開校準備事務室を登別高等学校内に設置</p> <p>平成18年11月・校舎新築工事完成</p> <p>平成19年4月・開校</p> <p>平成19年4月・開校式並びに第1回入学式の挙行</p> <p>平成21年10月・ユネスコスクールの加盟承認</p> <p>平成22年3月・第1回卒業証書授与式の挙行</p> <p>平成23年7月・北海道教育委員会「確かな学力を育む高校教育推進事業」実践研究推進校に指定(～平成24年度)</p> <p>平成23年10月・第1回「明日の日」(教育研究成果発表会)</p> <p>平成24年7月 ・「北海道グローバル人材育成プログラム」推進校に指定</p> <p>平成25年6月 ・北海道教育委員会「北海道高等学校学力向上推進事業」ベータモデル協力校に指定(～平成27年度)</p> <p>・同事業の土曜日授業調査研究校に指定(～平成26年度)</p> <p>平成26年4月 ・文部科学省「スーパーグローバルハイスクール」指定校に指定(～平成30年度)</p> <p>平成26年4月 ・文部科学省「土曜授業推進事業」指定校に指定</p> <p>平成27年8月 ・北海道教育委員会「課題解決に向けた主体的・協動的な学び(アクティブ・ラーニング)推進事業協力校に指定</p> <p>平成28年10月・10周年記念式典の挙行</p> <p>平成30年4月 ・国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程研究指定校事業(～令和元年度)</p> <p>平成31年3月・SGH最終成果報告会の開催</p> <p>平成31年4月「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」指定校に指定(～令和3年度)</p> <p>令和3年4月「スーパーグローバルハイスクールネットワーク」参加校に指定(～令和5年度)</p>		

日本工学院北海道専門学校

		特色ある教育活動 企業との連携を重視し、実践的な教育を行っている。各学科において企業へのインターンシップや企業の協力のもと実践に則した演習を実施している。 また、地域への貢献のために学生委員会を中心としてボランティア支援を積極的に行っている。
創立年月日	昭和57年4月1日	学校沿革の略歴
所在地	登別市札内町184-3	
電話・FAX	TEL 88-0888 Fax 88-0900	
校長名	福井 誠	
副校長名	引地 政 征	
生徒数	444名	
学級数	23学級	
職員数	35名	昭和 54.4 登別市長より学校法人日本電子工学院（当時）に対し専門学校開設の要請 56.9 専修学校の設置認可 57.4 日本工学院北海道専門学校第一回入学式 工業専門課程情報処理科、電気工学科、建築学科、情報工学科（現・文化・教養専門課程CGデザイナー科）等7学科を設置 59.4 工業専門課程にメカトロニクス科（現・自動車整備科）を設置 平成 3.9 創立10周年記念式典を挙げる 7.4 文部大臣から専門士の認定を受ける 9.4 学校法人名を片柳学園に変更 13.4 文化・教養専門課程に行政学科（現・公務員2年制学科）を設置 14.8 創立20周年記念式典を挙げる 19.4 医療専門課程に医療秘書科（現・商業実務専門課程医療事務科）を設置 27.4 文化・教養専門課程に公務員1年制学科を設置 29.4 商業実務専門課程にビジネス学科（現・ホテル科）を設置 31.4 福井誠が4代目校長に就任 令和 3.4 工業専門課程にITスペシャリスト科（4年制）設置
敷地面積	183,887m ²	
学校教育目標	○工業に関する専門の学理と技術を教育し、日進月歩の科学技術に即応する実践能力を備えた技術者の育成 ○新しい時代を先導しうる知識と理解力を兼ね備えた公共の仕事に担う人材の育成 ○福祉の時代を先導しうる知識と理解力を兼ね備えた医療福祉に担う人材の育成	
学校経営方針	【方針】 若者の持つ夢や希望を、技術という生きる力に育み豊かな未来創造に寄与するため、「若きつくりびと」の育成を目指す。 【重点】 ・アクティブラーニングが可能である教育設備の充実を図る ・遠隔授業等最新の技術を用いた授業方式にも対応できる環境を構築する ・地域に根差した教育活動を行うため、小・中・高のキャリア教育へ貢献する ・外部との連携や評価を得る機会を増やし、学生がより多くの経験を積める環境を整える	
今年度の重点		

<<<社会教育施設>>>

市民会館

所在地 登別市富士町7丁目33番地1 (Tel 0143-88-1139)

構造 鉄筋コンクリート造2階建

昭和58年6月1日開館

面積 建築2,833㎡ 延床4,658.81㎡

施設 1階 大ホール、大会議室、
サークル活動室、木工室、和室、
教育委員会事務室 など

2階 中ホール、小会議室、視聴覚室、
児童室、調理室、婦人サークル室、
青少年センター、一般財団法人登
別市文化・スポーツ振興財団事務室など



開館時間 午前9時～午後10時

休館日 年末年始

指定管理者 一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団

<利用状況>

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
大ホール	70件	55件	17件
	13,584人	11,193人	1,564人
中ホール	203件	181件	106件
	13,457人	12,957人	4,165人
大会議室	210件	217件	179件
	7,418人	8,158人	6,121人
小会議室	187件	185件	126件
	1,801人	1,808人	873人
児童室	141件	135件	135件
	934人	781人	606人
和室	226件	185件	99件
	1,765人	1,238人	645人
サークル活動室	275件	255件	186件
	2,437人	2,198人	1,286人
木工室	134件	119件	87件
	1,253人	950人	531人
視聴覚室	235件	212件	206件
	3,561人	3,305人	2,377人
調理室	54件	47件	10件
	871人	672人	49人
婦人サークル室	121件	92件	70件
	1,036人	791人	518人
合計	1,856件	1,683件	1,221件
	48,117人	44,051人	18,735人

鷺別公民館

所在地 登別市鷺別町3丁目3番地4

(Tel 0143-86-8823)

構造 鉄筋コンクリート造2階建

昭和60年6月1日開館

面積 建築 741 m² 延床 1,391 m²

施設 1階 会議室、研修室、和室

2階 ホール、和室

開館時間 午前9時～午後10時

休館日 年末年始

指定管理者 一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団



<利用状況>

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
ホール	260件	292件	141件
	10,293人	10,718人	6,473人
1号会議室	430件	440件	287件
	2,465人	3,982人	1,943人
2号会議室	472件	437件	259件
	5,146人	7,275人	2,379人
1号和室	442件	415件	121件
	2,650人	2,243人	531人
2号和室	388件	365件	176件
	1,438人	1,351人	525人
3号和室	348件	293件	147件
	1,223人	1,231人	504人
研修室	124件	127件	9件
	501人	406人	23人
合計	2,464件	2,369件	1,140件
	23,716人	27,206人	12,378人

登別公民館

所在地 登別市登別東町2丁目21番地1

(Tel 0143-83-1131※登別支所)

構造 木造一階建

昭和41年12月完成

面積 建築 207 m² 延床 207 m²

施設 1号室、2号室、3号室

開館時間 午前9時～午後10時

休館日 年末年始

※施設老朽化のため、令和2年9月30日をもって閉館



<利用状況>

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1～3号室	13件	28件	0件
	1,815人	2,285人	0人
主な利用	集会		

登別温泉公民館

所在地 登別市登別温泉町17
 (Tel 0143-83-1131 ※登別支所)
 構造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造3階建
 昭和44年開館
 面積 建築 231㎡ 延床 700㎡
 施設 3階 ホール、和室(老人憩の家)、児童室
 開館時間 午前9時～午後10時
 休館日 年末年始



<利用状況>

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
会議室・和室	22件	20件	4件
	528人	188人	62人
主な利用	集会		

図書館

所在地 登別中央町5丁目21番地1 (Tel 0143-85-4324)
 構造 鉄筋コンクリート造3階建 昭和47年5月開館
 面積 建築 346㎡ 延床 1,025㎡
 施設 1階 児童室、えほんのへや、事務室
 2階 一般閲覧室、開架庫、
 3階 会議室、閉架書庫、郷土資料室
 開館時間 平日 午前10時～午後6時 木曜日 午前10時～午後7時30分
 休館日 月曜日、祝日、毎月最終金曜日 年末年始

<利用状況>

区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
本館開館日数	276	276	274	251	251
移動図書館車巡回日数	223	223	224	206	205
蔵書冊数	157,493	160,684	163,043	163,781	164,994

<貸出冊数>

区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
本館	133,376	119,771	113,702	96,222	89,827
移動図書館	21,241	20,131	18,893	18,129	15,230
配本所	54,964	53,376	49,725	41,509	31,823
団体貸出	9,373	10,394	9,944	10,643	8,915
合計	218,954	203,612	192,264	166,503	145,795

<図書館利用人数>

区分	元年度	2年度
本館	23,989	29,056
移動図書館車	7,862	6,788
驚別配本所	6,928	5,568
登別配本所	905	804
登別温泉配本所	132	130
アーニス分館	7,057	3,259
合計	46,873	45,605

<年度別新規登録人数>

元年度	2年度
447	408
6	12
38	49
6	6
5	3
60	42
562	520

<年齢別利用人数>

区 分	元年度	2年度
0～6歳	5,728	5,015
7～9歳	2,875	2,050
10～12歳	1,804	803
13～15歳	504	376
16～18歳	164	156
19～22歳	255	117
23～29歳	546	541
30～39歳	3,807	2,503
40～49歳	5,875	4,464
50～59歳	4,643	3,438
60～69歳	8,439	6,262
71歳以上	11,153	10,894
そ の 他	143	46
団 体	956	639
合 計	46,892	37,304



登別市立図書館本館

登別市青少年会館

所在地 登別市中央町5丁目21番地12

(TEL 0143-85-3107)

構造 鉄筋コンクリート造2階建

昭和44年5月24日

面積 建築 602㎡ 延床 675㎡

施設 1階 体育館

2階 研修室、和室

開館時間 午前9時～午後10時

休館日 年末年始

<利用人数>

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
大人個人	149人	229人	276人
児童生徒個人	953人	587人	485人
団体利用	18,656人	15,972人	15,947人
合 計	19,758人	16,788人	16,708人
主 な 利 用	バレーボール・ミニバレー・ラケットテニス・剣道・レクダンス・バドミントン		

富岸青少年会館

所在地 登別市富岸町2丁目23番地15

(TEL 0143-86-2449)

構造 鉄骨造一部木造1階建

昭和54年4月3日開館

面積 建築 597㎡ 延床 597㎡ (専用のみ)

施設 体育館 (令和2年6月より利用停止)、
研修室、児童室

開館時間 午前9時～午後10時

休館日 年末年始



<利用人数>

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
大人個人	237人	148人	2人
児童生徒個人	944人	485人	49人
団体利用	22,945人	19,581人	2,811人
合 計	24,126人	20,214人	2,862人
主 な 利 用	ミニバレー・バドミントン・ラケットテニス・剣道・レクダンス		

登別市郷土資料館（文化伝承館）

所在地 登別市片倉町6丁目27番地2（TEL 0143-88-1339）

構造 鉄筋コンクリート造2階建

昭和56年9月1日開館

平成8年3月29日開館（文化伝承館）

面積 建築 542㎡ 延床 675㎡

施設 1階 展示室

（アイヌ文化、昔の生活道具などの展示）

準備室、伝承体験コーナー、
事務室、収蔵庫など

2階 展示室

（片倉家ゆかりの展示）

開館時間 4月～10月 午前10時～午後5時

11月～3月 午前10時～午後4時

休館日 月曜日（祝日、休日にあたる月曜日は開館）、国民の祝日の翌日、年末年始

<利用人数>

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
大人	2,160人	2,028人	1,313人
小人	583人	685人	243人
合 計	2,743人	2,713人	1,556人



ネイチャーセンター（ふおれすと鉱山）

所在地 登別市鉱山町8番地3

（TEL 0143-85-2569）

構造 鉄筋コンクリート造1階建

平成14年4月25日開館

面積 建築 1,477㎡ 延床 1,487㎡

施設 木工室、森の図書館、
自然情報展示、研修室、
食堂、ロビー、ネイチャーホール、
浴室、宿泊室（80人収容）

開館時間 午前9時～午後5時30分

休館日 月曜日、年末年始（月曜日が祝日の場合は翌日休館、7～8月は休館日なし）

指定管理者 NPO法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶ



<利用人数>

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
大 人	10,221人	10,233人	2,880人
児童生徒	7,924人	7,933人	2,347人
幼 児	3,611人	3,769人	849人
合 計	21,756人	21,935人	6,076人

のぼりべつ文化交流館（カント・レラ）

所在地 登別市登別温泉町123番地1 (Tel 0143-84-2069)

構造 鉄筋コンクリート造3階建

平成19年6月1日開館

面積 建築 990㎡、延床 2,563㎡

施設 1階 学習室、図書室、保管室、
体験学習室、収納展示室 など
2階 胆振教育研究所、教育資料室
研修室、展示室、談話室、調理室
3階 サークル活動室1～3

開館時間 4月～10月 午前10時～午後5時

11月 午前10時～午後4時

貸館 午前9時～午後5時

休館日 月曜日（祝日、休日にあたる月曜日は開館）、国民の祝日の翌日、12月～3月

<利用人数>

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
見学者	1,759人	2,300人	601人
利用者	1,923人	1,898人	264人
合計	3,682人	4,198人	865人



市民プール（らくあ）

所在地 登別市幸町1丁目5番地2

(Tel 0143-85-5588)

構造 鉄筋コンクリート造一部木造2階建

平成16年6月1日開館

面積 建築 3,039㎡ 延床 3,500㎡

施設 1階 競泳用プール、多目的プール、
流水・歩行プール、リラクゼーションプール、トレーニングルーム、事務室、会議室、
休憩室 など

2階 研修室、キッズコーナー

開館時間 午前10時～午後9時

休館日 第1・第3月曜日及び年末年始

指定管理者 一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団

<利用人数>

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
幼児	2,500人	1,588人	1,384人
児童生徒	21,317人	22,506人	12,463人
一般	39,054人	33,107人	24,073人
高齢者	49,063人	46,178人	37,097人
事業参加	5,354人	5,085人	785人
合計	117,288人	108,464人	75,802人



総合体育館

所在地	登別市若山町2丁目26番地1 (Tel 0143-85-5552)
構造	鉄骨造・鉄筋コンクリート造・ 鉄骨鉄筋コンクリート造3階建 昭和49年10月10日開館
面積	建築 2,164.48㎡ 延床 2,817.79㎡
施設	1階 アリーナ、休憩室、事務室、 更衣室 2階 会議室、多目的ルーム 3階 観覧席
開館時間	午前9時～午後9時
休館日	年末年始
指定管理者	一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団



<利用人数>

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
大人個人	4,519人	4,287人	4,654人
児童生徒個人	5,298人	3,916人	4,221人
団体利用	43,915人	42,027人	28,433人
合計	53,732人	50,230人	37,308人
主な利用	バドミントン・バスケットボール・卓球・バレーボール・多目的ルーム		

陸上競技場

所在地	登別市千歳町3丁目1番地5 (Tel 0143-85-5552 総合体育館内)
開設	昭和43年8月開設
面積	28,587.27㎡
施設	1周400m
使用時間	日の出から日没まで
休館日	なし
指定管理者	一般財団法人登別市文化・スポーツ 振興財団



<利用状況>

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
利用人数	5,236人	3,194人	3,349人
主な利用	こいのぼりマラソン・陸上トレーニング・マラソン・サッカー・ゲートボール・グランドゴルフ		

<<<学校給食センター>>>

(1) 学校給食事業

(令和3年5月1日現在)

栄養バランスのとれた給食を小・中学校
や保育所に調理・配送します。

小学校8校 2,052人

中学校5校 1,127人

北海道登別明日中等教育学校前期課程

252人

保育所2所 137人



(2) 施設の概要

① 所在地 登別市千歳町3丁目1番地3

② 電話 0143-85-2723

③ FAX 0143-85-1479

④ <http://www.noboribetsu.ed.jp/~msc/>

(3) 学校給食の役割

本市の学校給食は、学校における教育活動の一環として、児童生徒の心身の健全な発達に寄与することを目標に、全校で完全給食を実施している。

〔学校給食の目標〕(学校給食法)

- 適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること
- 日常生活における食事について、正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、及び望ましい食習慣を養うこと。
- 学校生活を豊かにし、明るい社交性及び共同の精神を養うこと。
- 食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであるということについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めること。
- 食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導くこと。

(4) 食に関する指導

子どもたちが健全な心と体を培い、生きる力を身につけていくためには「食」が基本となります。しかし、食生活の多様化が進む中で、肥満、偏った栄養摂取、朝食欠食など子どもたちの食生活の乱れが深刻化する問題となっています。

子どもたちに望ましい食習慣を身につけてもらうため、また、健康についての意識がもてるよう、学校と連携を図りながら、様々な学習機会において、「食に関する指導」を実践しています。

◎ 給食指導のねらい

- ① 楽しく（正しく）会食すること
- ② 健康によい食事の取り方
- ③ 食事と安全・衛生
- ④ 食事と文化
- ⑤ 勤労と感謝

(5) 給食対象者数の状況（令和3年5月1日現在）

対 象 者	人 数
小 学 校 児 童	1, 8 9 2 人
中 学 校 生 徒	1, 2 6 8 人
教職員・保育所	4 0 8 人
合 計	3, 5 6 8 人

(6) 給食費の状況

給 食 対 象 者	年 額
小学校1年生・6年生	5 3, 4 3 6 円
小学校2～5年生	5 4, 0 0 0 円
小学校特別支援学級	5 2, 5 6 0 円
中学校1～2年生	6 5, 0 4 0 円
中学3年生	6 2, 3 0 4 円

(7) 給食内容

児 童 ・ 生 徒 ・ 教 職 員	主食：パン、米飯 牛乳 温食：麺類、スープ類、煮物、汁物 副食：煮魚、天ぷら、フライ、サラダ類 デザート類
-------------------	---

◎ 各種審議会委員等

1 登別市社会教育委員

(発足) 社会教育法第15条に基づき、昭和46年に「登別市社会教育委員に関する条例」を制定し、発足

(目的) ・社会教育に関して教育委員会に助言するため次の職務を行う。

(1) 社会教育に関する諸計画の立案

(2) 教育委員会からの諮問に応じ、これに対して意見を述べる。

(3) 前2項の職務のために必要な研究調査を行う。

・教育委員会の会議に出席して社会教育に関する意見を述べること。

(委員) 学校教育関係者、社会教育関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者から委嘱(15名以内)

2 登別市教育支援委員会

(発足) 昭和54年に「登別市就学指導委員会規則」を制定し、発足
平成26年に「登別市教育支援委員会規則」に改正

(目的) 教育上特別な配慮を要する就学前幼児、児童及び生徒に対し、適正な就学指導及び教育支援に必要な事項の調査、審議等を行う。

(委員) 医師、特別支援学級設置校校長、特別支援学級担任教諭、児童福祉関係者、学識経験者から委嘱(25名以内)

3 登別市学校給食センター運営委員会

(発足) 昭和41年に「登別市学校給食センター条例」を制定し、発足。

(目的) 学校給食用物資の購入、献立及び調理方法、並びに給食費の徴収方法その他給食センターの運営について、教育委員会の諮問に応じ、調査及び審議し、その結果を答申する。

(委員) 教育関係者、学識経験者から委嘱(10名以内)

4 登別市図書館協議会

(発足) 図書館法第14条に基づき、昭和47年に「登別市立図書館条例」を制定し、発足。

(目的) 図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる。

(委員) 学校教育関係者、社会教育関係者、家庭教育の向上に資する活動を行うもの並びに学識経験のある者から委嘱(5名)

5 登別市スポーツ推進委員会

(発足) スポーツ基本法第32条に基づき、平成23年に「登別市スポーツ推進委員会設置条例」に改正し、名称変更を行った。

(目的) スポーツの振興に関する事項についての調査審議及び建議等を行う。

(委員) 学校教育関係、社会教育関係に深い関心・理解を持っているスポーツ関係団体、スポーツ経験者から委嘱(15名)

6 登別市文化財審議会

(発足) 文化財保護法の規定に基づき、平成2年に「登別市文化財保護条例」を制定し、発足

(目的) 教育委員会の諮問に応じて、文化財の保存及び活用に関する専門的事項を調査審議し、これらの事項に関して建議する。

(委員) 学識経験者の中から委嘱(10名以内)

7 登別市青少年問題協議会

(発足) 地方青少年問題協議会法に基づき、昭和37年に「登別市青少年問題協議会設置条例」を制定し、発足

(目的) ・青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する総合的施策の樹立につき、必要な重要事項を調査審議する。

・青少年の指導、育成、保護及び矯正の関する総合的な施策の適切な実施を期するために必要な関係行政機関相互の連絡調整を図る。

・前項に関し、市長に対し意見を述べる。

(委員) 市議会議員、関係行政機関の職員及び学識経験者から委嘱(15名以内)

8 登別市重大事案対策委員会

(発足) いじめ防止対策推進法に基づき、平成29年に「登別市重大事案対策委員会及び登別市いじめ調査委員会条例」を制定し、発足

(目的) 市立小・中学校においていじめに係る重大事態の対処及び当該重大事態と同種の事態の発生の防止その他の教育委員会が必要と認める事項について調査審議する。

(委員) 教育、法律、精神保健、心理、人権擁護等に関する専門的知識及び経験を有する者から委嘱(5名以内)

◎ のぼりべつの文化財

(1) 国指定文化財

種 別	名 称	所在地	指定年月日	摘 要
天然記念物	登別原始林	登別温泉町	大正 13. 12. 9	北海道中帯南部の植物区系を代表する学術上貴重な天然林の保存を目的に指定された。

(2) 登別市指定文化財

種 別	名 称	所在地	指定年月日	摘 要
有形文化財	円空作観音像	登別温泉町	平成 5. 9. 2	寛文6年（1666）、美濃国の僧、円空上人が道南各地を巡錫しながら鉦作りというナター丁で観音像を刻み、そのうちの1体が当時権現沢に祀られていました。明治44年（1911）の山火事で一時行方不明となりましたが、現在は、地獄谷展望丘の一角に社を設けて安置されています。
	円空作聖観音像	登別温泉町	平成 5. 9. 2	円空作観音像が明治44年の山火事で行方不明となったため、当時登別温泉に在住で郷土史家だった故石川修次氏が、昭和32年、円空上人の中期多作時代の観音像1体を愛知県名古屋市中川区の荒子観音寺から入手し、その後昭和40年に観音山聖光院に奉安された観音像です。
	高村東雲作観音像	登別温泉町	平成 5. 9. 2	各像は故岩原菊次郎氏らを中心に登別温泉在住の人々が費用を募り、戦時中東京から栗山村に疎開中の三代目高村東雲に製作を依頼し、安置したものです。

種 別	名 称	所在地	指定年月日	摘 要
有形文化財	日野愛憲の「明治2年以降片倉家北海道移住顛末」	片倉町	平成 5. 9. 2	この著書は、日野愛憲（当時50歳）が、片倉家の入植した明治2年（1869）から24年間のできごとをまとめたものです。片倉主従が厳しい自然環境に立ち向かい、数々の苦難を克服した史実を伝える登別市の貴重な開拓記録です。
	黒澤家史料	片倉町	平成 10. 2. 10	旧仙台藩白石城主片倉家の家臣、黒澤家に伝わる武家文書です。
	幌別村役場文書	片倉町	平成 31. 4. 26	戸長役場設置前の数点を含め、明治13年（1880）開設の戸長役場の行政文書を引き継ぐとともに、幌別村役場内において作成又は受理され、一部を除き幌別村役場の文書保存規程により「永年保存文書」として管理保存されてきた文書96点。本市の歴史を明らかにする上で大変貴重な資料群です。
民俗文化財	幌別鉦山獅子舞	鉦山町	平成 5. 9. 2	鉦山町で鉦山事業がはじまった明治39年（1906）から大正9年（1920）にかけて、宮城県出身者が郷里をしのんで行っていたものが取り入れられた獅子舞です。
記念物	登別化石林の炭化木（トドマツ）	片倉町	平成 29. 2. 1	昭和59年（1984）、北海道縦貫自動車道工事の際、「胆振団体研究会」により発見されました。発見された炭化木は、約43, 580年前のクッタラ火山の噴火堆積物により形成されたものです。ウルム氷期中期の寒冷な気候の変遷の実態を明らかにし、北海道及び登別市の自然史とクッタラ火山の活動史を解明する上でも貴重な資料です。

(3) 指定以外の文化財

種別	名称	所在地	指定年月日	摘要
有形文化財	念仏鬼像	登別温泉町		毎年8月に行われる「登別地獄まつり」の 主役である赤鬼立像3.5m、青鬼立像2. 2mの像に守られている小さな社(鬼祠) の中に江戸時代から伝わるという「念仏鬼 像」が安置されています。
民俗文化財	鷺別子ども獅子 舞	鷺別町		昭和50年12月、鷺別神社の改築された のを機に、宮城県遠田郡涌谷町で若いころ 獅子舞をしていた草岡久男氏が愛好会を結 成し発足したのが始まりです。
	熊舞	登別温泉町		数百年前、けもの道しかなかった登別温 泉の湯沼には熊やキツネなどの動物たち が薬湯につかっており、先人がこの地に 初めて足を踏み入れたとき山中で熊に出 会い、その熊の道案内で地獄谷にたどり ついたという伝説にもとづいて、昭和5 6年、当時低迷していた登別観光の活性 化、湯への感謝と千客万来の祈願を目的 として、登別観光協会の全面的な協力 のもと、新しく創作した郷土芸能です。
	北海自衛太鼓	緑町		昭和40年、地域との交流と隊員の士気 高揚を図るために結成され、若さと力強 さにあふれた自衛隊流にアレンジした打 法は登別の名物として定着しています。
	幌別駒おどり	幌別町		開拓の力になった馬の活躍と、先祖の苦 労に感謝する気持ちを後世に伝えるため 昭和38年創作された郷土芸能です。
	湯鬼神かぐら	登別温泉町		地獄谷から鬼が出たという伝説に基づき 泉源である地獄谷のお湯に対する感謝、湯 の街の繁栄と旅人の安全を祈願して舞う 郷土芸能で、昭和49年、若者達が自ら創 作した郷土芸能です。

種 別	名 称	所在地	指定年月日	摘 要
民俗文化財	子宝もちつき 舞い	登別温泉町		登別温泉町に湧く名湯「子宝湯」にちなんで、子宝安産・夫婦円満・家内安全を祈願して、昭和57年の「登別温泉湯まつり」から誕生した郷土芸能です。
	幌別鉦山溪龍 太鼓	鉦山町		夏に鉦山町で行われる「溪流まつり」で演奏するため、鉦山町に居住する若者達が平成9年にグループが結成されました。現在は、休止中。

(4) 記念物・史跡

名 称	所在地	摘 要
題目石	登別温泉町	明治4年(1871)に伊達妙栄寺の開山である日進上人が墨で自然石にお題目を書いたものであるといわれています。今では判読することはできませんが、水を注ぐとわずかに墨痕をうかがうことができます。
薬師如来	登別温泉町	文久元年(1871)、火薬の原料として地獄谷から硫黄を採掘していた南部藩内氏の家臣善四郎の職人がお堂の下から湧いている温泉で目を洗ったところ眼病が治ったことから、そのお礼として寄進した石碑が安置されているのが薬師如来です。以来、湯治客から目の湯として伝承されてきました。
金成マツの碑	富浦町	金成マツは明治8年(1879)11月10日当時の幌別村に生まれました。明治26年にジョン・パチェラーの奨めにより函館聖公会の伝道学校(愛隣学園)で洋風教育を受け、キリスト教の布教活動を行いました。晩年は、登別に住み、ユカヲをローマ字で筆録しました。
知里幸恵の墓	富浦町	知里幸恵は明治36年(1903)6月8日当時の登別村で生まれ、6歳の時祖母モナシノウクとともに、旭川に住む金成マツのところに移り住んでいます。モナシノウクは金田一京助から「最大の叙事詩人」と絶賛されたユカヲの語り部です。幸恵は19歳で亡くなり、金田一京助により東京の霊園に埋葬されていましたが、昭和50年に現在の富浦墓地、金成マツの碑の隣に改葬されました。
知里真志保をはぐくんだ地	登別本町	明治42年(1909)現在の登別本町で生まれ、アイヌ語を学問として整え、アイヌ文化研究の基礎を確立した言語学者です。また、「アイヌ神謡集」で有名な姉幸恵も育てたこの地は、水と森に深く包まれたカムイユカヲ発祥の聖地といえます。

名 称	所在地	摘 要
馬事訓練所跡	中登別町	第2次世界大戦中、陸軍により「登別馬事訓練所」(現ユートピア牧場付近)が設けられ、軍人・民間人に対し馬事の訓練を行ったところです。
カムイワッカ	中登別町	カムイワッカは、アイヌ語で「神の水」を意味します。北海道の名付け親である江戸時代の探検家松浦武四郎も、安政5年(1858)8月に登別を訪れた際、「カモイワッカ」へ立ち寄ったと記録しています。大正7年(1918)には登別駅から登別温泉を結ぶ軽便鉄道が開通し、カムイワッカに「神威若」停車場が設置され、蒸気機関車の給水所の役割も果たしました。カムイワッカからは、今も変わらず水が湧き出ています。
滝本金蔵人馬継立所の跡	登別本町	明治6年(1873)、札幌本道(現登別小学校の前の通り)で、自ら私財を投じ登別温泉への道路を整備、湯宿を開くなど登別温泉の開発に尽力した滝本金蔵が宿泊所を設け、人馬継立所として遞送を行った場所です。
愛隣学校跡	幌別町	愛隣学校は、明治21年(1888)にアイヌの子供たちのために、幌別アイヌと英国聖公会宣教協会のジョン・バチラーによって設立された学校です。明治28年頃(1895)まで学校は続いており、その後、隣にある教会の日曜学校に吸収されてしまいましたが、明治期のアイヌ自身による教育活動として大きな役割を果たしたと言えます。
ジョン・バチラー家跡	青葉町	明治26年(1893)に札幌に転居するまでの間、幌別を中心としてキリスト教の伝導に従事しました。その間、ルイザ夫人と召使いパラピタ夫妻及びその養女キンが生活していた木造の邸宅があった跡地です。ここを拠点として、馬に乗り遠くは日高方面へ布教に行っていたといわれています。
片倉家家臣による鷺別開拓発祥の地	美園町	「胆振国幌別郡全図」によると、片倉家家臣がこの地に移住を計画したのは戸数18戸、長屋1戸、開拓畑反数77反四畝歩と記されています。「幌別郡之内鷺別屋敷図」には江戸期の道路を中心に黒澤源一郎・桐軍治・榛沢蔵松・杉山与一郎らの屋敷図が記載されています。この地10万㎡は明治3年(1870)以降鷺別開拓の拠点になりました。
アフルルバル	登別本町	アフルルバルは、アイヌ語で「入る・道・口」の意味で、あの世の入口を指しています。一般的には横穴ですが、ここは珍しい竪穴です。アイヌ語学者 知里真志保、友人でアイヌ語地名研究者の山田秀三らが、昭和30年(1955)に真志保の父 高吉の案内で調査しました。穴は楕円形で、道路工事で一部破壊されていますが、現在でもその大きさを体感できます。金成マツが、この地にまつわるウエペケレ(昔話)を残しています。

名 称	所在地	摘 要
江戸期の旧道「七曲り坂」	富浦町	松浦武四郎は弘化2年（1845）以降蝦夷地をたびたび探検調査しましたが、東蝦夷日誌ホロベツ領に「坂口より九折を上る。十年前栈橋なりしが今は無く上り平地（小休所）下崖にて、下を臨めば白海岸を撃ち、西を臨めば白海岸を撃ち、西を眺めれば会所元（幌別）よりエトモ岬、内浦岳（駒ヶ岳）、その景恰も薩捶峠にて富峰（富士山）を見るが如し」とその景色を絶賛した所で、箱館奉行所役人や蝦夷警備の武士など多くの人々が通行した江戸期の旧道跡です。

（５）記念碑

名 称	所在地	摘 要
東宮殿下大婚奉祝記念碑	登別温泉町	東宮殿下（後の大正天皇）のご結婚を記念して、街の有志たちが湯澤神社境内に建立しました。
頌徳碑・功労碑	登別温泉町	登別温泉の開拓・発展に大きな功績を残した滝本金蔵・栗林五朔翁らを讃えた碑です。滝本金蔵翁は登別温泉開拓の祖として、江戸時代に来泉し明治時代に活躍し、また栗林五朔翁は大正時代に温泉経営の近代化に尽力し偉大な足跡を残しました。
野宿の碑	カルルス町	オロフレ荘前の川淵にあり、明治22年（1889）、日野久橋が伐採樹種調査のためにこの地を訪れ、カルルス温泉を発見した際に一夜を過ごした場所です。
開湯二十五年記念碑	カルルス町	明治32年（1899）8月6日にカルルス温泉を開湯した日野久橋・市田重太郎の創業25年来の努力を讃え、その後のカルルス温泉発展を望んで建立されました。
功程碑	カルルス町	カルルス温泉開湯30年を記念して、開場当時の道路開削などの記録がこの石碑に記されています。
開祖日野久橋翁功績碑	カルルス町	昭和3年7月8日、日野久橋夫妻の金婚式の祝いとともに、カルルス温泉の開祖者として尽力した久橋の功績をたたえ、地域の有志たちによって昭和3年6月10日に建立されました。
滝本翁記念碑	登別温泉町	湯澤神社境内に建てられ、「瀧川湯本翁命」の石碑と併設されています。
知里真志保の碑	登別本町	真志保は生前「故郷をしのび、海に見える丘に住みたい」というのが口癖だったといわれ、これを知った室蘭中学校同窓生が中心となり、太平洋と生まれ育った登別川をのぞむ丘に碑を建立しました。現在は登別小学校脇に建っています。

名 称	所在地	摘 要
明治天皇記念碑	富浦町	明治天皇が北海道2回目の巡幸の時にこの地で休憩したのを記念して建立されたものです。
魚霊碑	富浦町	魚族の霊を慰めるために富浦町の漁民たちが中心となって寄付を募り、富浦漁港の船巻き揚げ場に建立した碑です。
ダム龍神	川上町	奥川上部落の住民たちが天地の恵みと土地の繁栄及び無災害を祈願して、西湖岸に守護神木塔を建立した碑です。
開拓記念碑	中央町	男爵片倉健吉をはじめ片倉家旧家臣で幌別に移住した人たちによって刈田神社境内に建立された碑です。
明治天皇御駐輦記念碑	中央町	明治天皇が北海道2回目の巡幸の時にこの地を視察したのを記念して建立された碑です。刈田神社境内。
奉祝大婚之碑（東宮殿下）	中央町	刈田神社境内に東宮殿下（後の大正天皇）の成婚式挙行を記念して建立された碑です。
堀孝太郎記念碑	中央町	堀孝太郎は明治22年（1889）から約20年間幌別小学校の校長を務め、謹厳な中にも慈愛にあふれた人柄で生徒にも尊敬され、登別の教育界に立派な足跡を残しました。
大正天皇御即位記念碑	中央町	大正天皇の即位を記念して建立された碑です。刈田神社境内。
開拓記念碑	鉾山町	幌別ダムの上流に蔭の沢鉾山跡があり、その上の平坦地に碑が立っています。
堀嘉国先生頌徳碑	鷺別町	堀嘉国は登別温泉小学校で7年、鷺別小学校で6年余り校長を務め、父孝太郎同様に慈愛にあふれた人柄だったので生徒から大変尊敬され、子どもの非は自分がいたらないからだといって自分を厳しく戒めたといわれている。
札内六拾年記念碑	札内町	札内地区の開拓60周年を記念して、現在の日本工学院北海道専門学校近くの道路沿いに建てられています。
明治天皇記念碑	鷺別町	明治天皇が北海道2回目の巡幸の時にこの地を視察したのを記念して建てられた碑です。

（6）歌碑・句碑

名 称	所在地	摘 要
高浜虚子の句碑	カルルス町 登別温泉町	札幌市で開催の全道ホトトギス俳句大会に出席する途中、昭和23年6月15日、高浜虚子・高浜利尾らが登別温泉に宿泊し、翌16日にカルルス温泉に吟行した後、登別温泉で虚子の歓迎句会が開かれたときに詠んだ句です。 地獄谷の舟見山遊歩道の中にも虚子の句があり、大正8年6月に旭川で開かれたホトトギス北海道全国大会のため来道した際の作品です。

名 称	所在地	摘 要
吉田元利の歌碑	カルルス町	札幌の吉田元利が、東宮殿下（後の大正天皇）大婚の夏にカルルスの鈴木旅館の前にある楓の木が二本交差している（夫婦楓）さまを見て詠んだ歌です。
栗林加寿子の歌碑	登別温泉町	地獄谷の舟見山遊歩道及び登別ガーデンには、登別温泉発展の功労者である栗林五朔夫人加寿子の歌碑が4基あります。
臼田垂浪の句碑	登別温泉町	臼田垂浪は長野県に生まれ、大正4年に俳句誌「石楠」を創刊しました。昭和11年8月に来道の際、登別温泉に立ち寄って詠んだ句を弟子が碑を建立しました。
香葉句碑	登別温泉町	碑文は明治神宮の建設を記念して、と前書きがあり左側に細字の掘り込みが見られるものの、判別することはできません。

（7）埋蔵文化財包蔵地

遺跡名	所在地	時 代	摘 要
鷺別1遺跡	鷺別町	縄文前期 ～晩期	縄文時代前期の円筒下層式、中期の円筒上層式及び余市式、後期の入江式、晩期の亀ヶ岡式土器が出土した遺跡です。貝塚を主体とする遺跡で、ハマグリを中心にホッキやホタテの貝殻も発見されており、登別の考古学調査はここを最初とします。
鷺別2遺跡	美園町	縄文中期	鷺別川左岸の河岸段丘に形成された遺跡で、土器片が発見されています。
鷺別3遺跡	鷺別町	アイヌ文化期	現在の透禅寺付近にあたり、かつて宅地造成工事の際、人骨・鉄刀・漆器片が発見され、アイヌ文化期の墳墓があったと考えられています。
富岸神社遺跡	富岸町	縄文中期 ～晩期	富岸川左岸の河岸段丘、緑陽中学校東側に形成され、縄文後期の入江式土器が出土しています。
富岸小学校遺跡	富岸町	縄文中期	標高約20mの富岸川右岸河岸段丘に形成された遺跡。縄文中期とみなされる遺物が出土しています。
富岸遺跡	富岸町	縄文早期 ～後期	富岸川左岸の河岸段丘から丘陵部の標高30～35mに形成された遺跡で、昭和55年の発掘調査では円筒下層式・円筒上層式・北筒式・余市式・入江式・堂林式などの土器5,510点が出土しています。縄文時代各期の遺物が出土していますが、中期・後期が主体の遺跡です。この遺跡と川上B遺跡からは魚の骨を土器の表面に回転させた「魚骨回転文土器」が出土しています。また、発見された「落とし穴」3基のうち1基は土層断面から縄文中期～後期にあたと推定されています。

遺跡名	所在地	時代	摘要
亀田公園遺跡	富岸町	縄文中期 ～後期	標高4.7m～6.2mの南東向き緩斜面上に形成された遺跡で、北海道縦貫自動車道の建設に伴い昭和61年2,355㎡にわたり発掘調査が実施されました。縄文時代中期の集落跡で土器片・石器など総数731点の出土遺物や住居跡・囲いのない地床・炉跡などの遺構28基が発見されています。
川上A遺跡	桜木町	縄文後期 ～続縄文	幌別川の河岸に形成された遺跡で、続縄文期の恵山式土器が出土しています。土偶が1点付近から出土しています。
川上B遺跡	青葉町	縄文早期 ～後期	北海道縦貫自動車道登別・室蘭インターチェンジ付近のヤンケシ川右岸の河岸段丘上標高1.5～2.5mに形成された大規模な遺跡で、昭和55年から60年にかけて発掘調査が実施されました。登別では初の旧石器や中茶路式・円筒上層式・北筒式・余市式・入江式など縄文早期～後期にかけての土器約8万点が出土し、直径1.2mを越える大型住居跡など150の縄文中期末葉～後期前葉の住居跡や墓などの遺構が発見されています。雨の多い登別にあつて、縄文時代にも豪雨による土砂崩れが少なくとも2回は起きていたことがこの発掘調査で推定されています。この遺跡からは「北海道式石冠」と称されるすり石や「石刃鏃」というシベリア方面から伝わり登別が南限といわれる石器「耳飾り」などのアクセサリーも出土しています。また、出土した獣骨や魚骨からエゾシカ・サメ・サケ・ウグイなどが当時の食料源として捕獲の対象になったことがわかっています。
来馬チャン跡	片倉町	アイヌ文化期	幌別ダムの建設工事の際に破壊され、現存していません。内耳土器・チャン時代成立期頃の遺跡といわれています。
片倉遺跡	片倉町	縄文中期	幌別川左岸の河岸段丘に形成された遺跡で、円筒上層式土器が出土しています。幌別ダムのダムサイト建設中に大規模に破壊されたと考えられ、包蔵地と思われる部分は土取りされています。
来馬遺跡	片倉町	縄文中期	範囲1,400㎡の遺跡ですが、詳細については分かっていません。
幌別遺跡	中央町	続縄文	来馬川の左岸に形成された遺跡で、恵山式の土器が出土しています。
山木1遺跡	常盤町		範囲2,500㎡の遺跡ですが、詳細は分かっていません。
山木2遺跡	常盤町	縄文前期 ～中期	範囲2,800㎡の遺跡ですが、詳細は分かっていません。
千歳1遺跡	千歳町	縄文前期 ～中期	岡志別川の河岸段丘に形成された遺跡で、円筒上層式・下層式土器や北海道式石冠などが出土しています。昭和56年、千歳6遺跡と平行して登別市教育委員会が調査を実施しました。

遺跡名	所在地	時代	摘要
千歳2遺跡	千歳町	縄文早期 ～後期	札内台地の裾野に形成され、北海道式石冠、石鏃などが出土しています。また、北海道縦貫自動車道工事の作業所建設時には、縄文時代前期の竪穴式住居跡も発見されています。
千歳3遺跡	千歳町	続縄文	岡志別川右岸、札内台地の裾野に形成された遺跡で、恵山式土器が出土しています。
千歳4遺跡	千歳町	縄文早期 ～後期	札内台地の裾野、2つの小川にはさまれた丘陵の南向き斜面から低地にかけて広がる遺跡で、道道の改良工事に伴い昭和55年に発掘調査が実施されました。縄文中期の住居跡の床面から円筒上層式・北筒式・静狩式などこの時期の土器に混じって、東北地方北部で出土している縄文中期の最花式に似た土器がまとまって見つかり、貴重な研究資料となりました。
千歳5遺跡	千歳町	縄文前期 ～後期	岡志別川上流域左岸、札内台地の裾野に形成された遺跡で、昭和57・59両年度発掘調査が行われました。住居跡や北筒式・余市式・円筒上層式・煉瓦台、青竜刀形（中国の青竜刀に似た縄文時代の磨製石器で東北地方から渡島半島にかけて分布、刀としてではなく祭祀などに使われたと思われる）などの土器・石器とともに、「オロシガネ状石器」が出土しています。この「オロシガネ状石器」は毒草をすりつぶして狩猟に使った、という説や、表面が擦り減っていないので単に祭祀の道具として使われたという説などがありますが詳しくはわかっていません。また、石斧の原石や破片がたくさん出土していることからここで石斧を制作していたことも確認されています。縄文中期から後期までの遺物が多量に発見されたほか、縄文早期～後期の遺物も発見されており、定住的な生活があったことがわかります。
千歳6遺跡	千歳町	縄文中期	岡志別の森運動公園の北東の丘陵上に形成され、昭和56年度に発掘調査が実施されました。大・小の住居跡を含む竪穴34基や石囲炉1基などの遺構をはじめ、ノダップⅡ式土器、余市式土器が出土しています。縄文晩期を除く各期の遺物を出土していますが大きくわけて早期と中期後半～後期前半の二つの時期を中心にわずかずつ地点を替えながら集落を形成し生活が営まれていたと考えられています。
千歳7遺跡	千歳町	縄文中期	札内台地の裾野のごく狭い範囲に形成された遺跡で、円筒上層式土器や石器が出土しています。
トイセコツ遺跡	登別本町	縄文中期	北海道縦貫自動車道工事の際に発見された「登別化石林」に近い丘陵頂上部にあります。
中登別遺跡	中登別町	縄文中期	ポンアヨロ川右岸の台地に形成された遺跡で、北海道縦貫自動車道登別東インター付近にあります。

遺跡名	所在地	時代	摘要
若山町遺跡	若山町	縄文前期 ～中期	富岸川左岸の丘陵の先端に形成された遺跡。試掘調査により、縄文時代前・中期の土器や石器が発見されています。
アフルパル遺跡	登別本町	アイヌ文化期	蘭法華岬から続く平坦な海岸段丘上に形成されています。平面の形は30m×22mの楕円形を呈するすり鉢状のくぼ地で、底に向かって階段状になっています。知里真志保・山田秀三によってこの地に伝わる話が紹介されています。アイヌ文化の送りを考える上で興味深い遺構といえます。
千歳8遺跡	千歳町	縄文中期	岡志別川右岸の緩やかな斜面に形成された遺跡です。縄文土器のほかに石器も発見されています。
富岸川右岸遺跡	富岸町	縄文中期 ～後期	富岸川右岸の緩やかな斜面に形成された遺跡です。平成19年の発掘調査では、竪穴式住居跡が4軒、シカを捕獲するための落とし穴が379基発見されました。西胆振だけでなく、全道的にも非常に密度の濃い落とし穴の数であり、縄文時代の狩猟活動を考える上で貴重なデータを残しています。
キウシト遺跡	富岸町	縄文早期・中期・後期、続縄文	富岸川左岸の標高20～30mの海に向かって伸びる長尾根上に位置しています。遺跡の性格としては、住居跡や獣骨が混じる炉跡の検出や多くの土器や礫石器の出土から、集落跡であった可能性が高いと考えられます。しかし、狩猟用の落とし穴が発見されていることから、時期的に猟場として使用されていたことも想定されます。
ウキシマニシト遺跡	常盤町	縄文早期	来馬川と岡志別川にはさまれた細尾根の標高40m地点に位置します。 造成によりほとんど削平されていますが、土器が発見されています。
富岸川左岸遺跡	富岸町	縄文中～後期	富岸川左岸の標高54～64mの山の中腹に位置します。土器や石器、石製のアクセサリーが発見されています。富岸川右岸と関係がある集落跡と考えられます。
シンノシケウンオカシベツ遺跡	千歳町	縄文早～後期、擦文	岡志別の支流であるシンノシケウンオカシベツ川の微高地に位置します。市内で数少ない擦文時代の遺跡です。
シンケプシニナルカ遺跡	千歳町	縄文早～中期	岡志別川とその支流であるシンノシケウンオカシベツ川にはさまれた段丘の緩やかな斜面に位置します。 広い範囲で確認されており、標高の高い地点にまで広がる可能性があります。
ウキシマニシト2遺跡	常盤町	縄文早期	来馬川と岡志別川に挟まれた尾根上の標高30～36mに位置します。縄文時代早期の土器、黒曜石製の石鏃などが発見されています。

登別市小中学校・高等学校統廃合校の沿革と校歌

1. 幌別鉦山小中学校

明治40年 5月 幌別尋常小学校附属幌別鉦山教授所として開校
 大正 4年 4月 幌別鉦山尋常小学校と改称
 昭和22年 4月 幌別鉦山小学校と改称
 昭和28年 4月 幌別鉦山中中学校を設置し、小学校に併置（幌別鉦山小中学校と改称）
 昭和33年12月 新校舎落成
 昭和49年 3月 閉校

校歌	作詞 作曲 安達保
一、四方めぐらす山々は 北斗の星とささやきて 大きく伸びよとのぞみいる 共にこたえんその希望 きたえて進むこの庭に 鉦山 鉦山 わが鉦山校	
二、星のひとみのまたたきは 幌別川の影宿し 久遠のしあわせねがっている 共に励まん人の道 学びて歩むこの庭に 鉦山 鉦山 わが鉦山校 （昭和三八、三制定）	

2. カルルス温泉小学校

大正12年 4月 登別温泉尋常小学校カルルス特別教授所として開校
 昭和12年12月 カルルス温泉尋常小学校と改称
 昭和22年 4月 カルルス小学校と改称
 昭和48年 6月 創立50周年記念式典
 昭和57年 3月 閉校

校歌	作詞 作曲 柳沼牧羊 福田耕二
一、みどりのしずく ぎんの水 もみじのしずく きんの水 小鳥も風も いつもきて ちとせの川は 流れてる きれいな町のカルルスの みんなの温泉小学校	
二、ちぎれてとぶは 白い雲 ふんわりうくは あかね雲 小鳥も風も いつもきて オロフレ岳は そびえてる ひらけて古い カルルスの みんなの温泉小学校	
三、げんきな声は 男の子 あかるい声は 女の子 小鳥も風も いつもきて まなぶたのしさ あふれてる ゆめの大きい カルルスの みんなの温泉小学校 （昭和四八・一一制定）	

3. 札内小中学校

明治33年 5月 幌別尋常小学校札内簡易教育所として開設
 大正 2年10月 児童の激減で同教育所閉校
 大正 5年 4月 幌別尋常小学校附属札内教育所として再開
 昭和15年 4月 札内尋小小学校として独立
 昭和24年11月 幌別中学校札内分校として設立認可、札内小学校に併置
 昭和29年 4月 札内中学校として独立し、札内小中学校に改称
 平成10年 3月 閉校

校歌	
作詞 柳沼牧羊	一、山が呼ぶ 山が呼ぶ ポントコ山のひかる雲 仲良くこぞって手を上げて 登ろう 希望の峰めざし みんなの学校 札内校 わが母校
作曲 間島 篤	二、丘が呼ぶ 丘が呼ぶ 札内原野のかおる風 仲よくこぞって肩組んで 創ろう 理想のさとめざし みんなの学校 札内校 わが母校
	三、海が呼ぶ 海が呼ぶ 太平洋の白いなみ 仲よくこぞって腕ためて こごう平野の岸めざし みんなの学校 札内校 わが母校 (昭和四一、一制定)

4. 登別温泉中学校

昭和22年 5月 設立認可（3学級編成）登別温泉小学校に併置
 7月 開校となり、9月より正常授業
 昭和24年12月 登別温泉小学校隣地に木造校舎完成
 昭和53年12月 登別温泉町123番地に新校舎完成（現在、文化交流館「カント・レラ」）
 昭和54年 2月 開校30周年記念式典
 昭和58年 2月 愛鳥保護モデル校に指定される。
 平成 4年 6月 北海道知事より「愛鳥モデル校」として指定を受ける。
 平成10年10月 開校50周年記念式典
 平成16年 3月 閉校

校歌	
作詞 石森延男	一、美わしき雲立ちのぼれ 日和山 仰ぐわれらの ひとみにも 高き理想は かがやけり まことの世界 学びつつ きょうも進まん まっしぐらに
作曲 久本成夫	二、風そよぐ桜が丘の 静けさは 思うわれらの 友情と 自由奉仕の 精神を 尊き行為 身に付けて あすも進まん とともに
	三、名にしおう いで湯の町と わがふるさとへ 幸多く 自然の恵み ゆたかなり 力あふるる このからだ いよよ育てん すこやかに (昭和二九、七制定)

5. 登別温泉小学校

明治33年 6月 登別温泉簡易教育所を開設
 明治37年 5月 登別尋常小学校付属湯の滝教育所開設
 大正 4年 4月 湯の滝尋常小学校と改称
 大正 7年 7月 新校舍完成し、登別温泉尋常小学校と改称
 昭和32年10月 新校舍完成。創立50周年記念式典
 昭和53年10月 創立70周年記念式典
 平成18年11月 創立100周年記念式典
 平成19年 3月 閉校

校歌	作詞 西條八十 作曲 明本京静
一、わが日本の 誇りなる 清き温泉の 登別 みどりの峰に かこまれて 学ぶわれらは 幸あるこども	
二、明るき心 強き意志 恩師の教え まもりつつ 学びの業に 体育に 励むわれらは 雄々しきこども	
三、窓べにあおぐ 日和山 のぼる煙の ひとすじに 祖国の栄え めざしつつ 進むわれらは 希望のこども	
四、世界の平和 きずかんと 伸びてたくまし 日本の 未来を担う 者はたれ われぞわれぞ 光栄あるこども (昭和一八、二制定) (昭和二三、一改作)	

6. 登別高校

昭和23年10月 北海道室蘭高等学校（現室蘭栄高等学校）幌別分校として開校
 昭和27年11月 幌別高等学校（定時制）として独立
 昭和36年 4月 登別高等学校（全日制）として開校、定時制を併置
 昭和40年 4月 道立移管し北海道登別高等学校と改称
 昭和57年10月 全日制20周年・定時制30周年記念式典
 平成19年 3月 閉校

校歌	作詞 伊馬春部 作曲 石丸 寛
一、シノピリカ カムイネモシリ 永久なる流れ 幌別の ほとりに佇ちて 思うかな この地拓きし 祖祖の 意志の理想は なお生きて 若きわれらの 胸にあり かくてこそ 香るなれ 鈴蘭の原野も共に われら行く手に 幸う如く ああ登別 登別高等学校 わが母校	
二、シノピリカ カムイネモシリ 来馬オロフレ 幌別の 嶺嶺仰ぎ 謳うかな 雪に翠に また花に 姿かえつつ はぐくむは 若きわれらの命なり かくてこそ さやかなれ もろもろの鳥のこえごえ われら行く手 ことほぐ如く ああ登別 登別高等学校 わが母校	
三、シノピリカ カムイネモシリ 涯渺々の 太平洋 窓をのぞみて 誓うかな 産業地帯 その要 都市の未来を 創るもの 若きわれらの力なり かくてこそ 壮んなれ エネルギー 大地に満ちて われら行く手 導く如く ああ登別 登別高等学校 わが母校 力 若さの力 われら若人 登別 幸あれ 栄えあれ 光あれ (昭和四〇、一〇制定)	

室蘭常盤学校幌別分校（現幌別小学校） 設立請願書

北海道における小学校の初期教育は開拓の歴史とその変遷をともした。開拓者が入植すると、神社を建てて学校を開設するのが最も普通の順序であった。最初は正式な学校教育としてではなく、共立教育所という郷学校を開いて子弟の教育を行った。幌別は士族移住地で、概して教養あるものが多く、精神主義を主としたから、とりわけ教育には積極的であった。幌別地区に入植した開拓者は、年を追って学齢児童が増加し、小学校設置が急がれ、次のような願書が明治十四年に出された。

幌別郡幌別村仮小学校設立ニ付御補助之儀願

教育之儀ニ付テハ毎回御達ノ趣モ有之、本郡ニ於テモ小学校ヲ設ケ教授支度ハ年来ノ素願ニテ其ノ方法等協議仕候ヘドモ、何分ノ貧弱之一寒村其ノ資金ノ出ル目途不相立、稍々資産アルモノ札幌及室蘭港ニ寄留致シ学校へ通学候ヘドモ其ノ他ハ皆教育ノ何物タルヲ弁ゼズ、此節ニ至リ旧土人ヲ含メテ四十余名ノ学令児童モ有之、無際限此姿ニテ歳月徒ニ過ル時ハ独リ教育ノ趣意ニ戻ルノミナラズ、全郡ノ児童一丁字ヲ解スル能ハズ、普通ノ交際ヲモナス能ハザル段ニテ、父兄ノ義務モ不得歎息ニ堪ヘズ、今般一同評議寄付金募集百貳拾余円ヲ得、幌別村へ室蘭常盤学校ノ分校ヲ取立テ、常盤学校ニ級以上ノ生徒ヲ幌別へ交番派出シ教授ヲ受度入費概算候ヘバ学校ニ充ツベキ家屋ノ修繕、書籍器材ノ購入費其ノ他日々ノ諸経費ハ寄付金並ニ授業料ヲ以テ支弁可仕候ヘドモ、教員ノ食費ニ充ツベキ四円ノ金ハ毎月不足ヲ生ジ、折角寄付金モ集纏候際此不足金ノタメ興学志願水泡ニ属シ候ハ実ニ遺憾之至リニ奉存候間格別之御詮議ヲ以テ相当御補助下賜人民ノ宿願相達教育之道ニ進之候様被成下度、常盤学校教員安田貞謹へモ協議ノ上維持法調書相添此段私共総代ヲ以奉願候也

幌別郡総代人学校世話役

西 東 勇 吾
日 野 久 橘

明治十四年四月

開拓権大書記官 鈴木大亮殿

前書之通願出候ニ付奥印之上進達候也

願之趣聞届候事

但当分ノ内一カ年補助金三十六円ノ割、開業ノ日ヨリ可下度候条受取方常盤学校補助金ノ例ニ倣ヒ会計局へ可承合事

明治十四年五月十一日

幌別郡各村戸長 本 沢 直 養

この請願により明治十四年六月十四日に今の幌別小学校が公立常盤小学校幌別分校として創立される。翌年の八月、今の鷺別小学校が公立常盤小学校鷺別分校として創立。同年十月、幌別分校が幌別小学校として独立するに伴い、幌別小学校鷺別分校となる。明治十九年、鷺別分校は戸数減少で廃校となり、同二十三年に再開される。
(昭和四十二年四月十五日発刊の「登別町史」より抜粋)

※上の願書の学校世話役というのは、明治5年の学制に基づき住民から選ばれた役で、学校の新設・就学の勧誘をその任務とした。
※明治5年の1円は今のお金に換算すると4万5千円に相当した。

令和3年度 (令和2年度実績)

登別の教育
(資料編)

登別市教育委員会

目 次

I	総務グループ	1
II	学校教育グループ	2
III	社会教育グループ	11
IV	図書館	17
V	市内小学校一覧	19
VI	市内中学校一覧	19
VII	社会教育施設一覧	20

I 総務グループ

(1) 教職員住宅整備事業費 4,646万円4千円

教職員住宅利用者が安心して生活することができるよう、老朽化した屋根、外壁等の改修を行いました。

対象施設) 新生町教職員住宅K55

(2) 小学校周辺整備事業費 364万円1千円

児童などが安心して学校生活を送ることができるよう、老朽化したグラウンドフェンスの一部の改修を行いました。

対象校) 幌別東小学校

(3) 小学校耐震化・改修事業費 8,822万円

児童などが安心して学校生活を送ることができるよう、地震に対して倒壊等の危険性がある小学校校舎の耐震改修、屋根及び外壁の改修を行いました。

対象校) 幌別東小学校

(4) 中学校校舎等改修事業費 2,010万8千円

生徒などが安心して快適な学校生活を送ることが出来るよう、老朽化したトイレ内部、和式便器から洋式便器への改修を行いました。

対象校) 幌別中学校

(5) 中学校耐震化・改修事業費 16,106万2千円

生徒などが安心して学校生活を送ることができるよう、地震に対して倒壊等の危険性がある中学校校舎の耐震改修、屋根及び外壁の改修を行いました。

対象校) 幌別中学校

Ⅱ 学校教育グループ

(1) 不登校・いじめ等対策経費 16万5千円

- ・教育相談・いじめ相談…専門相談員を2人配置し、電話や来室による相談を受けました。
(月～金曜日の9時～17時)
- ・不登校・いじめ等対策会議…校長会や教頭会の代表、小中学校教諭、教育委員会などで構成される同会議を年2回開催しました(令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため書面にて開催)。

【学校訪問や実態調査の実施】

- ・『いじめ学習資料』の配布…小学5年生、中学2年生。
- ・保護者向け広報誌『手をつなぐ親と子』の発行…小中学校の家庭を対象に発行。
- ・不登校児童生徒をかかえる保護者懇談会…不定期開催(令和2年度は1回開催)
- ・ふれあいサポート懇談会…指導體制・実態についての情報交換や、自然体験学習・宿泊交流学習などの実施、スクールカウンセラーの活用についての協議を行う同懇談会を年2回開催。
- ・登別市小学校・中学校合同生徒指導担当者連絡会議…年2回開催
- ・登別市小学校・中学校・高等学校合同生徒指導担当者連絡会議…年2回開催
- ・児童生徒や保護者からの相談メールの受け付けを開始

(2) スクールカウンセラー活用事業費 3万8千円

小中学校におけるいじめや不登校などの問題行動について、臨床心理士などの専門家4人を学校に派遣し、児童生徒等の相談に対応しカウンセリング体制の充実を図りました。また、重大事案の発生に係り、スクールカウンセラーを3名増員し、緊急派遣を行いました。

配置校(拠点方式) 幌別中学校、鷲別中学校、緑陽中学校

(3) 心の教室相談員活動経費 16万円

生徒たちの不安やストレスなどを和らげ、心のゆとりを持てるよう心の教室相談員を各中学校に1人ずつ配置し、友人関係や進路、親子関係、登校拒否などについて生徒の相談に応じました。

配置校 幌別中学校、西陵中学校、鷲別中学校、緑陽中学校、登別中学校

(4) スクールソーシャルワーカー活用事業費 1万1千円

不登校など生徒指導上の問題解決に向けた校内体制の確立を図るため、教育委員会に2人のスクールソーシャルワーカーを配置し、学校、家庭、関係機関の訪問、及び児童生徒との面談を重ね、生活環境の調整や、児童生徒が抱える問題の解決に向け、支援を行います。

した。また、支援を必要とする保護者がスクールソーシャルワーカーと繋がるように、啓発リーフレットを作成し周知しました。

(5) 児童生徒健康診断等経費 1,481万9千円

市内小中学校の児童生徒並びに新入学児童の健康管理のために健康診断を行いました。

(6) 学校医等表彰経費 5万3千円

長年にわたり当市市立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師として、児童・生徒等の健康の保持増進と保健教育の振興に貢献したものに対し、その功績を称えました。

(7) 中学校体育連盟助成金 23万2千円

中学校の体育を振興し、スポーツを通して生徒の健康増進や生徒間交流を図るため、各種大会を主催する中学校体育連盟に助成金を交付しました。

(8) 外国青年招致経費 1,537万5千円

生きた英語を指導する外国語指導助手（ALT）4人を活用し、英語を使ったコミュニケーション能力の育成や地域における国際交流の推進を図りました。

(9) 特色ある学校づくり推進経費 285万6千円

- ・総合的な学習活動の研究推進…自由な学習環境の中で学ぶ総合学習の推進を図りました。
- ・生活科の実施…児童の健やかな成長を育むため、生き物の飼育や学校菜園を通して、命の尊さや自然に親しむ心の育成を図りました。

(10) 特別活動推進経費 122万円

児童会、生徒会やクラブ活動、部活動などを通して、児童生徒による自主的・実践的な活動を助長しました。

(11) 自然体験学習推進経費 134万3千円

児童生徒が宿泊研修などの自然体験学習を行い、学習を通して児童生徒の自主性や協調性を育みました。

(12) 小中学校情報教育推進事業費 1,804万3千円

高度情報通信ネットワーク社会の進展に対応するため、児童生徒に一人一台端末（Chromebook）を整備しました。また、授業などで児童生徒がパソコンや実物投影機などの情報通信機器を活用することで、様々な情報を主体的に選択・活用することができる能力の育成を図りました。

(13) コミュニティスクール活動支援事業費 45万3千円

今日の学校が抱える様々な課題を解決するために、市内小中学校が設置したコミュニティスクールの活動を支援することで、保護者・地域住民の意見が学校運営に反映される「地域とともにある学校づくり」の推進を図りました。

(14) 児童生徒遠距離通学費補助金 111万5千円

バスで通学する児童生徒の保護者の経済的負担の軽減を図るため、補助金を交付しました。

(15) スクールバス・スクールタクシー運行経費 1,274万2千円

児童生徒の通学の安全を確保するため、札内町から幌別小学校と幌別中学校へ及び美園町の一部地域から若草小学校へスクールタクシーを、カルルス・上登別・登別温泉・中登別地区から登別小学校へスクールバスを運行しました。

(16) 特別支援教育振興費 19万4千円

心身に障がいのある児童生徒の能力と個性を伸ばし、将来における社会人としての自立と社会参加を促すため、特別支援教育指導内容の研究と実践を図りました。

(17) 特別支援教育就学奨励費 232万6千円

特別支援学級に就学する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、就学に必要な費用を援助しました。

就学奨励費の支給内容（令和2年度・年額、児童生徒一人あたり）（単位：円）

区分		小学校	中学校	支給経費の内容
入学準備金	1年	25,555	28,990	小学校又は中学校に入学する者が通常必要とする学用品及び通学用品
学用品費 通学用品費		5,820	11,370	各教科及び特別活動に必要とされる学用品（実験、学習材料費を含む。）及び通学のための通常必要とする上ばき、雨ぐつなどの通学用品の経費。学校行事としての校外活動（遠足など）に参加するための経費
修学旅行費		限度額 10,790	限度額 28,860	小学校又は中学校でそれぞれ1回参加する修学旅行費（対象経費内）
学校給食費		27,000	1・2年 32,520 3年 31,165	学校給食に要する経費

校外活動費（宿泊）	限度額 1,845	限度額 3,105	学校行事として宿泊校外活動に参加する場合の経費（小5・中2）
校外活動費（宿泊無）	限度額 800	限度額 1,155	学校行事としての校外活動（遠足など）に参加するための経費
通学費	実費額		最も経済的な通常の経路と方法によって通学する場合の交通費（片道の通学距離が小学校4km以上、中学校6km以上）

就学奨励費の状況（過去5ヶ年の推移）

（単位：人・千円）

区 分		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
小学校	実施人員	30	41	40	40	38
	決算額	958	1,445	1,360	1,370	1,313
中学校	実施人員	21	17	17	25	17
	決算額	1,150	887	937	835	1,013
計	実施人員	51	58	57	65	55
	決算額	2,108	2,332	2,297	2,205	2,326

(18) 特別支援教育推進経費 166万2千円

心身に障がいのある児童生徒の教育的ニーズを踏まえて、学習に必要な備品・物品等を購入しました。

(19) 言語障害通級指導教室運営経費 25万8千円

言語治療を必要とする幼児・児童を対象に、ことばの教室を開設し、幼児部・小学部の入級判定や保護者との教育相談、言語指導等を行った。

通級指導校設置状況（令和3年5月1日現在）（単位：人）

区 分	障がい 区 分	児童数	学 年 別 内 訳						幼児部 の児童	職 員 数
			1	2	3	4	5	6		
幌別小学校	言 語	33	3	11	5	3	7	4	18	小学2 幼児2
鷺別小学校	言 語	22	4	8	5	4	1	0	17	小学2 幼児2

(20) 教育研究会運営事業補助金 24万8千円

職務遂行上、必要な専門知識の向上を図るため、教職員自ら教育のあり方を研究している登別市教育研究会の運営を支援しました。

(21) 教育実践研究奨励等経費 14万6千円

市内小・中学校の教育レベルを高めるため、実践奨励校ごとに研究主題を定め、その成

果を公開研究会で発表するとともに、研究成果をまとめた冊子を作成しました。

(22) 学校図書システム広域化事業費 150万8千円

「定住自立圏形成協定に基づく連携事業」として、学校図書システムを共同利用し、システム運用の効率化・安定化及び運用時のセキュリティ強化を図りました。

(23) 情報教育システム広域化事業費 550万8千円

「定住自立圏形成協定に基づく連携事業」として情報教育システムを共同利用し、システム運用の効率化・安定化及び運用時のセキュリティ強化を図りました。

(24) 英検チャレンジ事業費 40万円

小学校中学年が英語に対する意欲を保ちながら高学年からの外国語へつなげることを目的に小学校4年生を対象に英検 Jr. 学校版ブロンズテストを実施したとともに、グローバルに活躍する人材の育成を推進することを目的に、英検3級を受験する登別市立中学校生徒に対し、検定料の半額を補助しました。

(25) 学校図書館司書配置事業費 8万円

各小学校に学校図書館司書を配置し、児童が利用しやすい学校図書館を実現するための環境整備を図るとともに、多様な読書活動の企画を行い、学校図書館の機能向上及び児童の読書活動の定着を推進しました。

(26) 要保護・準要保護就学援助費 5,559万1千円

小・中学生が学用品費や給食費などの心配をすることなく義務教育が受けられるよう、児童・生徒の保護者に必要な援助を行いました。

(令和2年度・年額)

区分		小学校	中学校	支給経費の内容
入学準備金	1年	51,060	60,000	小学校又は中学校に入学する者が通常必要とする学用品及び通学用品
学用品費 通学用品費	1年	11,630	22,730	各教科及び特別活動に必要とされる学用品（実験、学習材料費を含む。）及び通学のための通常必要とする上ばき、雨ぐつなどの通学用品の経費
	2年 ～ 6年	13,900	25,000	
修学旅行費		実費額		小学校又は中学校でそれぞれ1回参加する修学旅行費（対象経費内）
学校給食費		54,000	1・2年 65,040 3年 62,330	学校給食に要する経費

区分	小学校		中学校
体育実技用具費	現物支給		保健体育の授業の実施に必要な体育実技用具（スキー小1・4）
校外活動費（宿泊）	限度額 3,690	限度額 6,210	学校行事として宿泊校外活動に参加する場合の経費（小5・中2）
校外活動費（宿泊無）	限度額 1,600	限度額 2,310	学校行事としての郊外活動（遠足など）に参加するための経費
通学費	実費額		最も経済的な通常の経路と方法によって通学する場合の交通費（片道の通学距離が小学校4km以上、中学校6km以上）
医療費	学校病治療に要した経費 （社会保険等の給付額を控除した額）		就学援助を受ける児童・生徒が、伝染病又は学習に支障を生ずるおそれのある疾病（学校病）の治療に要する費用 学校病～トラコーマ、結膜炎、白せん、疥せん、膿痂疹、中耳炎、慢性副鼻腔炎、アデノイド、う歯、及び寄生虫病（虫卵保有含む）
P T A会費	限度額 3,450	限度額 4,260	学校に納入するP T A会費
クラブ活動費 （中学校のみ）		限度額 4,800	学校に納入するクラブ活動費
生徒会費 （中学校のみ）		限度額 2,000	学校に納入する生徒会費
卒業アルバム代等	限度額 11,000	限度額 8,800	卒業アルバム代等の購入に要する費用

就学援助の状況（過去5ヶ年の推移）

（単位：人・千円）

区 分		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
小学校	認定人員	459	470	425	430	391
	支給人員	439	438	397	402	370
	決算額	31,540	33,716	30,551	30,255	28,662
中学校	認定人員	266	284	257	246	244
	支給人員	246	266	241	227	230
	決算額	28,675	33,453	30,000	29,020	26,929
計	実施人員	725	754	682	676	635
	支給人員	685	704	638	629	600
	決算額	60,215	67,169	60,551	59,275	55,591

※ 認定人員は、年度末の認定人員数（準要保護＋要保護）

※ 支給人員は、当該年度の実支給人員数（準要保護＋要保護修学旅行参加者）

(27) 姉妹都市小中学校交流事業

例年、市内の小・中学生が、姉妹都市である宮城県白石市・神奈川県海老名市の小・中学生と学校間交流を行い、互いのまちの歴史を学び交流を深めています。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止しました。

※ 予算はその都度、総務費から補助金方式で対応

(28) 教育支援委員会 113万9千円

登別市では、専門家の意見を聞くなどして、適切な就学指導を行うことができるよう、医師・学識経験者・教育職員・児童福祉施設の職員からなる教育支援委員会を設置し、心身の障がいの種類・程度等に関する調査・審議を行いました。

特別支援学級設置状況（小学校）（令和3年5月1日現在）

	障がい 区 分	学級数	児童数	学 年 別 内 訳						職員数	介助員数
				1	2	3	4	5	6		
幌別小学校	知 的	1	1		1					2	0
	自閉情緒	1	1	1							
幌別西小学校	知 的	1	4		1	1		2		3	1
	自閉情緒	2	9		2		1	3	3		
	肢 体	1	1	1							
幌別東小学校	知 的	1	1					1		2	0
	自閉情緒	1	2					1	1		
青葉小学校	知 的	1	2	1			1			2	1
	自閉情緒	1	4		1		1	1	1		
鷺別小学校	知 的	1	3	1			1	1		2	1
	自閉情緒	1	2		1				1		
若草小学校	知 的	1	4					4		2	3
	自閉情緒	1	8	1	1	4	1		1		
登別小学校	知 的	1	4		1	1	1		1	2	0
	自閉情緒	1	6	1	2	2			1		
富岸小学校	知 的	2	9			1	3	3	2	4	1
	自閉情緒	1	3		1			2			
	肢 体	1	2					1	1		
合 計	知 的	9	28	2	3	3	6	11	3	19	7
	自閉情緒	9	36	3	8	6	3	7	9		
	肢 体	2	2	1				1			

特別支援学級設置状況（中学校）（令和3年5月1日現在）

	障がい 区 分	学級数	生徒数	学年別内訳			職員数	介助員数
				1	2	3		
幌別中学校	知的	1	4	1	2	1	2	0
	自閉情緒	1	1		1			
西陵中学校	知的						2	0
	自閉情緒	1	1			1		
鷺別中学校	知的	1	4	2		2	2	1
	自閉情緒	1	4	1	2	1		
登別中学校	知的	1	2	1	1		2	0
	自閉情緒	1	1		1			
緑陽中学校	知的	1	2			2	2	1
	自閉情緒	1	3		1	2		
合 計	知的	4	12	4	3	5	10	2
	自閉情緒	5	9	1	5	4		

障がい区分別児童生徒数（令和3年5月1日現在）（単位：人）

区 分	児童生徒数	小 学 校	中 学 校
知的	40	28	12
自閉・情緒	45	36	9
肢体不自由	2	2	0
合 計	87	66	21

(29) 新型コロナウイルス予防対策経費 2,701万6千円

小中学校の教育活動再開に際し、密閉・密集・密接を回避し、児童生徒・教職員等の新型コロナウイルス感染症対策に必要な消毒用品・換気用品や、児童生徒の学びを保証するためのICT機器や教材等の購入を行いました。

(30) 小中学校通信ネットワーク整備事業費 1億2,155万円

GIGAスクール構想に伴い、市内小中学校に新たに高速大容量の無線通信ネットワークを整備しました。また、児童生徒が使用する一人一台端末（Chromebook）用の充電保管庫を整備しました。

(31) 小中学校情報機器整備事業費 1億4,372万円

GIGAスクール構想に伴い、児童生徒が使用する一人一台端末（Chromebook）を整備しました。また、オンライン学習に必要なICT機器を整備しました。

(32) いじめ重大事案対策委員会経費 149万2千円

令和2年6月22日に発生した、市内当該校に在籍する生徒が死亡した事案について、当該生徒の保護者より当該生徒の死亡に係る原因追求についての申立てがあり、令和2年6月25日に開催した令和2年度第2回登別市教育委員会において、登別市重大事案対策委員会に対し、いじめの事実関係の調査及び検証について、諮問することとし、令和2年7月22日（水）第1回重大事案対策委員会を開催しました。

登別市重大事案対策委員会は、諮問事項について調査審議を行うため、関係者への聴き取り調査など、8ヶ月の間に12回委員会を開催し、報告書を取りまとめ、令和3年3月22日（月）教育委員会は答申を受けました。

(33) 小学校体育授業支援事業費 305万8千円

市内小学校の体育授業にスポーツ指導員6名を派遣し、球技や器械運動、スキー授業における実技指導や休み時間における運動を実施し、指導体制の充実を図りました。

Ⅲ 社会教育グループ

(1) 放課後子ども教室推進事業費 369万8千円

子育て環境の整備を図るため、放課後に子どもたちが安全・安心して過ごせる活動拠点（居場所）をつくり、地域の方々の協力を得て、様々な体験活動や交流活動などの取組を推進しました。

(2) 通学合宿 みんなで学ぶ「子ども村」 0円

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から開催を中止しました。

(3) ネイチャーセンター運営管理経費 4,054万7千円

NPO法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶを指定管理者として、宿泊型の自然体験学習施設「登別市ネイチャーセンター『ふおれすと鉾山』」の運営管理を委託し、自然を活用した様々な体験活動を推進しました。

(4) 市民生涯学習推進講座経費 76万1千円

・**登別ときめき大学**…社会、経済、自然、歴史、文化など、多分野にわたる知識を学ぶ場を提供するとともに、まちづくりを担う人材を育成するため「登別ときめき大学」を開校しました。

令和2年度の学生数は55人です。

・**家庭教育学級**…市が主体となって、保育所、幼稚園、小学校の保護者を対象に1学級を開設し、交流を図りながら、子育てに関する様々なことを学ぶことのできる学習会を4回開催しました。

・**市民マイプラン講座**…市内の団体が、自主的に行う学習会に対し講師を派遣し、市民の学習意欲を喚起することで生涯学習の推進を図りました。（1団体年度1回）

(5) 公民館運営管理経費 333万8千円

地域住民に交流・研修の場を提供することにより、生涯学習の環境の充実を図るため、登別・登別温泉公民館の運営管理と鷺別も含めた各公民館の補修及び整備を行いました。また、令和2年9月30日をもって、登別公民館を廃止しました。

公民館名	住 所	電話番号
登別温泉公民館	登別温泉町17	83-1131 (登別支所)
鷺別公民館	鷺別町3丁目3番地4	86-8823

(6) 教育施設運営管理委託料（市民会館・鷺別公民館・総合体育館・陸上競技場）
6,474万円

市民の健全な心身の育成を図るため、施設の運営管理を指定管理者である一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団に委託し、市民が活発に文化・スポーツ活動を行うことのできる環境を整えました。

(7) P T A 連 合 会 助 成 金 1 万 8 千 円

子どもたちの豊かな人間性を育むため、市内の小中学校及び高等学校の P T A で構成される P T A 連 合 会 対 し、その活動に要する経費の一部を助成しました。

(8) 地域学校協働本部事業費 304 万 8 千 円

地域教育力の向上を図るため、学校・家庭・地域が連携・協働しながら、地域の特色を活かした地域学校協働事業を実施しました。

(9) 青少年育成指導経費 39 万 4 千 円

青少年センターを運営し、青少年非行や犯罪被害等の未然防止を図り、青少年が健やかに育つ環境を構築しました。

(10) 成人祭経費 21 万 9 千 円

新成人の大人としての意識の向上を図るため、登別市成人祭実行委員会の主催により成人祭を検温・消毒の実施、式典の時間短縮やアトラクションの一部中止、座席の間隔を空ける等の新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じて開催しました。

(11) 少年の主張大会経費 0 円

中学生が日常生活での体験や日ごろ考えていることなどについて発表を行う少年の主張大会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、胆振地区大会及び全道大会の中止に合わせて中止としました。

(12) 子ども会活動振興助成金 36 万 9 千 円

子どもたちの「生きる力」と健全な心身の育成を図るため、子どもたちの健全育成のために活動する登別市子ども会育成連絡協議会に対して、その活動に要する経費の一部を助成しました。

(13) 西いぶり定住自立圏文化事業負担金 2 万 4 千 円

西いぶり定住自立圏（登別・室蘭・伊達・豊浦・壮瞥・洞爺湖）で実行委員会を組織し、「上方落語」の公演を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により事業を中止しました。

(14) 児童・生徒文化振興助成金 2 万 1 千 円

保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校に通う市内に居住する児童及び生徒又は市内の学校等に通う児童及び生徒が文化活動で全道や全国、国際大会に参加する場合に要する経費の一部を助成し、父母等の経費負担の軽減と、児童生徒の文化の振興を図りました。

(15) 文化振興助成金 80万円

地域に根ざした文化振興活動を行う文化団体を支援することにより、市民が文化に親しむことのできるまちづくりの推進を図りました。

加盟団体数 令和2年度 30団体

(16) 登別市文化・スポーツ振興財団運営補助金 1,108万7千円

市民に質の高い文化やスポーツの場を提供するため、文化やスポーツ活動の振興を図る一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団に対し、その運営に要する経費を補助しました。

(17) 登別市文化・スポーツ振興財団事業補助金 49万7千円

文化振興及びスポーツ推進を図るため、一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団が行う、文化振興事業やスポーツ振興事業などの実施に要する経費の一部を補助しました。

(18) 郷土資料館運営管理経費 189万3千円

郷土に関する資料を市民に供することにより、ふるさと登別を愛する心を育てることを目的に、郷土の歴史、民俗、産業、文化に関する資料を収集、保管、展示しました。

(19) 郷土資料館整備事業費 660万円

アイヌ政策推進交付金を活用し、郷土資料館1階のアイヌ文化展示コーナーに展示ケース等を設置しました。

(20) アイヌ関連収蔵品保存事業費 95万9千円

本市のアイヌ文化に関する資料を適切に保存することにより、アイヌ文化の振興並びに普及・啓発を図ることを目的に郷土資料館に保管されているアイヌ文化関連資料（アイヌ風俗画）の修復を行いました（アイヌ政策推進交付金事業）。

(21) 文化財保護経費 67万4千円

郷土を形作る文化財の保護と活用を図ることにより、ふるさと登別に対する理解を深め、大切にすることを養うため、様々な事業を実施し文化財の活用等を図りました。

アイヌ政策推進交付金を活用し、市内に残るアイヌ関連資料の悉皆調査（登別アイヌ協会資料等）、アイヌ文化に係る説明看板を新規に設置または更新を行いました。

(22) 文化伝承館運営管理経費 29万3千円

郷土の歴史や文化を伝承することにより、市民の教育・文化の向上を図るため、郷土資料館ボランティアの協力を得て学習会等を開催しました。

(23) のぼりべつ文化交流館運営管理経費 227万9千円

埋蔵文化財に接する機会を設けることにより、郷土に対する理解を深めるとともに、作品展示の場を設けることで市民の文化活動を推進しました。

(24) のぼりべつ文化交流館体育館除却事業費 4,607万9千円

令和元年11月14日の暴風により体育館の防水シートが破断し、利用の停止を決定したことから施設の解体を実施しました。

(25) アイヌ文化講座経費 16万円

市民がアイヌ文化に対する理解・関心を深めることのできるよう、アイヌ文化に触れ、学ぶ機会を設けました。

(26) アイヌ民族文化祭2020補助金 3万円

アイヌ民族の尊厳の確立と文化の保存及び伝承を図ることを目的に、公益社団法人北海道アイヌ協会主催のアイヌ民族文化祭に係る開催費用の一部を補助しました。

(27) アイヌ文化振興経費 28万8千円

アイヌ文様の刺繍が施されたタペストリーを製作し、市内小学校8校に設置しました(アイヌ政策推進交付金事業)。

(28) スポーツ協会助成金 76万8千円

市民の健全なスポーツ活動の普及び発展を図るため、登別市スポーツ協会の活動に要する経費の一部を助成しました。令和2年度加盟団体数 15団体

(29) 生涯スポーツ振興及びスポーツ関連団体の育成経費 3万5千円

新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じながら、市民の健康推進・体力向上の新たなきっかけづくりとして朝イチ・リフレッシュ体操を実施しました。

(30) スポーツ少年団育成助成金 43万9千円

子どもたちの体力づくり及びスポーツ技術の向上を図るため、登別市スポーツ少年団本部の活動に要する経費の一部を助成しました。

(31) 児童生徒スポーツ振興助成金 70万1千円

保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校に通う市内に居住する児童及び生徒又は市内の学校等に通う児童及び生徒がスポーツ活動で全道や全国、国際大会に参加する場合に要する経費の一部を助成し、父母等の経費負担の軽減と児童生徒のスポーツ活動の推進を図りました。

(32) スポーツ推進委員会経費 35万2千円

体育・スポーツの振興を図るため、スポーツ行事への参画や軽スポーツなどの普及活動を行うスポーツ推進委員の活動を支援しました。

委員数は15人でスポーツイベントへの協力や軽スポーツの普及等を行いました。

(33) 6市町スポーツ交流会事業費 0円

小学生のスポーツ交流を推進することにより、児童の健全育成を図るため、西いぶり定住自立圏（登別市・室蘭市・伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町）の子どもたちを対象としたスポーツ大会の開催を支援する予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により中止となりました。

(34) 学校開放事業費 11万円

地域におけるスポーツ活動を促進し、市民の健康・体力づくりの増進を図るため、市内小・中学校等の屋内運動場を市民へ開放しました。

開放する小学校（8校）

開放する中学校（2校）

開放期間 4月～2月

(35) 青少年会館運営管理経費 1,143万円

市内2カ所の青少年会館を運営管理し、レクリエーション活動等を推進することにより、青少年の健全な育成を図りました。管理業務は、(公社)登別市シルバー人材センターに委託しました。

青少年会館名	住 所	電話番号
登別市青少年会館	中央町5丁目21番地12	85-3107
富岸青少年会館	富岸町2丁目23番地15	86-2449

(36) 市民プール運営管理経費 6,403万円

市民の健康増進と余暇活動の充実を図るため、市民プールの運営管理を指定管理者である一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団に委託し、施設管理の他、各種水泳教室・運動教室などを実施しました。

(37) 市民プール整備事業 4,035万6千円

市民が安全・安心にプールを利用できるよう、施設環境の改善を図るため、日常点検や定期点検の結果などを踏まえ、設備の改修等を実施しました。

(38) 岡志別の森運動公園等運営管理経費 1,398万6千円

市民の健康増進と余暇活動の充実を図るため、北海道曹達株式会社幌別事業所へ指定管理委託し、岡志別の森運動公園及び川上公園（Bゾーン）の運営管理を行いました。

(39) 東京2020オリパラで夢を育むスポーツ推進事業費 0円

東京オリンピック・パラリンピックを契機として、子どもたちの夢を育み、スポーツの活性化を図るため、講演会や実技指導の実施を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止しました。

(40) 放課後運動教室実施経費 43万8千円

子どもたちの健康増進と運動能力の向上を図るため、市内小学校の放課後時間を利用した運動教室を、令和2年度より開催しました。運動教室の実施については、NPO法人おにスポに委託しました。

IV 図書館

(1) 図書館運営管理経費 1,084万5千円

図書館資料の整備と市民の求める資料の提供に努めるとともに、すべての市民を対象にした読書推進事業を行いました。

・主な事業・・・じどうしつだより・ブックリストの発行、おはなし会の開催、ロビー展示、団体貸出・施設搬送の実施、図書消毒機の設置（新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用） など

(2) 図書館ネットワークサービス広域化事業費 188万6千円

定住自立圏の連携事業として、登別・室蘭・伊達の3市の図書館情報システムや図書資料等を一体で運用・利用しました。

(3) アーニス分館運営管理経費 617万4千円

図書館分館を運営し、高齢者を対象とした大活字本の充実、雑誌資料の拡充、インターネットを活用したデジタル資料・データベースの提供を行いました。

(4) ブックスタート・ライブラリースタート事業費 69万8千円

・ブックスタート・・・4か月児健診時に絵本2冊と絵本リストやアドバイス集、コットンバッグを配布しました。

・ライブラリースタート・・・3歳児健診対象世帯に当該事業を説明したチラシを送付し、後日、来館された際に施設のサービスや事業、利用方法等の紹介と併せて本1冊を提供しました。

(5) アイヌ文献収集事業費 97万6千円

知里幸恵、真志保に関する資料をはじめ、古書店での選書を中心にアイヌ文化に関連する資料を収集するとともに、常設展示スペースを設けて市民の利用に供しました。

(6) 電子図書館整備事業費 6,38万7千円

電子図書館を整備するため、電子図書館のプラットフォームを整備し、電子書籍を購入しました。（新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用）

(7) 施設の概要

- ① 所在地 登別市中央町5丁目21番地1
- ② 電話 0143-85-4324
- ③ FAX 0143-85-4325
- ④ <http://www.noboribetsu.ed.jp/~iinkai/library/index.html>
- ⑤ 開館時間 10:00～18:00 (木曜のみ19:30)
- ⑥ 休館日 月曜日、国民の休日 (月曜日の場合は翌日)、年末年始、
図書整理日 (月の最終金曜日)、特別整理期間 (年間7日以内)

(8) 分館・配本所

- ① アーニス分館
所在地 登別市中央町4丁目11番地 アーニス内
電話 0143-81-2182
- ② 鷺別配本所
所在地 登別市鷺別町3丁目3番地4 鷺別公民館内
電話 0143-86-8823
- ③ 登別配本所
所在地 登別市登別東町3丁目6番地7 婦人センター内
電話 0143-83-1131
- ④ 登別温泉配本所
※令和3年3月31日をもって廃止

V 市内小学校一覧

令和3年5月1日現在

学 校 名	所在地	電話	学級数	児童数	通 学 区 域
幌別小学校 明治14年6月14日開校	中央町 6-19-1	85-2521	13	257	中央町、常盤町、千歳町、 来馬町、札内町(381番地を除く)
幌別西小学校 昭和27年6月1日開校	片倉町 5-13	85-2364	15	301	富士町、新川町、片倉町、柏 木町、川上町、鉾山町
登別小学校 明治25年8月10日開校	登別本町 3-25-2	83-1014	8	131	登別温泉町、上登別町、カルス町、登 別本町、登別東町、登別港町、富浦 町、札内町 381 番地、中登別町
鷺別小学校 明治23年4月1日開校	鷺別町 4-36-21	86-7011	12	258	鷺別町、栄町1丁目・2丁目
富岸小学校 明治29年5月1日開校	富岸町 2-17-4	86-6303	16	379	新生町、富岸町、若山町3・4丁目、 栄町3・4丁目、大和町2丁目
幌別東小学校 昭和45年4月1日開校	幌別町 8-16-1	85-3532	8	78	幌別町、幸町、新栄町
若草小学校 昭和46年4月1日開校	若草町 1-1-2	86-7513	13	307	美園町、若草町、上鷺別町
青葉小学校 昭和52年4月1日開校	青葉町 3-3	85-1477	13	247	緑町、桜木町、青葉町、大和町1 丁目、若山町1・2丁目

VI 市内中学校一覧

令和3年5月1日現在

学 校 名	所在地	電話	学級数	生徒数	通 学 区 域
幌別中学校 昭和22年5月1日開校	千歳町 3-1-3	85-3111	7	149	幌別小学校、幌別東小学校 の通学区域
鷺別中学校 昭和22年5月1日開校	鷺別町 4-36-6	86-7950	11	284	鷺別小学校、若草小学校の 通学区域
登別中学校 昭和22年5月1日開校	登別本町 1-1-1	83-1029	5	87	登別小学校の通学区域
西陵中学校 昭和49年4月1日開校	片倉町 5-12-1	85-5041	7	140	幌別西小学校の通学区域
緑陽中学校 昭和58年4月1日開校	富岸町 1-11-1	85-5409	14	394	青葉小学校、富岸小学校の 通学区域

VII 社会教育施設一覧

施設名称	所在地	内 容	指定管理者
市民会館 昭和 58 年 6 月開館	富士町 7 丁目 33 番地 1	大ホール、中ホール、大会議室、小会議室、和室、サークル活動室、木工室、視聴覚室、調理室、婦人サークル活動室、児童室、展示ホール	(一財) 登別市文化・スポーツ振興財団
郷土資料館(文化伝承館) 昭和 56 年 9 月開館 (平成 8 年 3 月開館)	片倉町 6 丁目 27 番地 2	展示室、体験学習室	
登別市民プール 昭和 50 年 2 月開館 平成 16 年 6 月建替開館	幸町 1 丁目 5 番地 2	公認競泳 25m プール、流水・歩行プール、多目的プール、リラクゼーションプール、トレーニングルーム、研修室、会議室、キッズルーム、休憩室、ギャラリー、ロッカールーム、シャワールーム、身障者更衣室	(一財) 登別市文化・スポーツ振興財団
ネイチャーセンター ふおれすと鉦山 平成 14 年 4 月開館	鉦山町 8 番地 3	自然情報展示、森の図書館、食堂、木工室、宿泊室、研修室、ロビー、ネイチャーホール、浴室	NPO 法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶ
のぼりべつ文化交流館 カント・レラ 平成 19 年 6 月開館	登別温泉町 123 番地 1	情報スペース、学習室、保管室、体験学習室、収納展示室、準備室、図書室、研修室、展示室、調理室、談話室、サークル活動室	
鷺別公民館 昭和 38 年 12 月開館 昭和 60 年 6 月建替開館	鷺別町 3 丁目 3 番地 4	ホール、1 号会議室、2 号会議室、1 号和室、2 号和室、3 号和室、研修室	(一財) 登別市文化・スポーツ振興財団
登別温泉公民館 昭和 44 年 4 月開館	登別温泉町 17 番地	ホール、1 号和室、2 号和室、児童室、老人憩の家	
総合体育館 昭和 49 年 10 月開館	若山町 2 丁目 26 番地 1	競技場、多目的ルーム、会議室、更衣室	(一財) 登別市文化・スポーツ振興財団
登別市青少年会館 昭和 44 年 5 月開館	中央町 5 丁目 21 番地 12	体育館、研修室、和室	
富岸青少年会館 昭和 54 年 4 月開館	富岸町 2 丁目 23 番地 15	体育館 (令和 2 年 6 月より利用休止)、研修室	
岡志別の森運動公園 平成 9 年 4 月開園	千歳町 97 番地外	野球場、テニスコート、パークゴルフ場、休憩所	北海道曹達株式会社 幌別事業所
陸上競技場 昭和 43 年 8 月開設	千歳町 3 丁目 1 番地 5	400mトラック	(一財) 登別市文化・スポーツ振興財団